

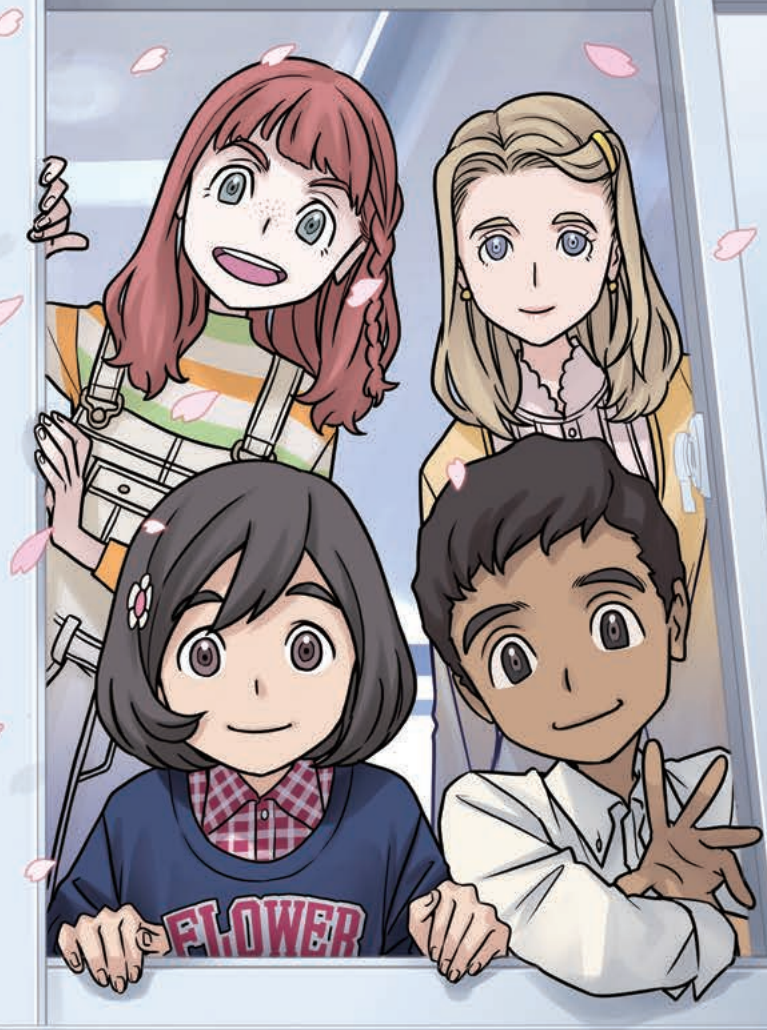
TEN

英語教師のための情報誌

特別
増刊号

2020

TEACHING ENGLISH NOW



巻頭 新時代の **NEW CROWN** 根岸 雅史

- 02 語彙 日臺 滋之
- 04 文構造と文法事項 竹内 理
- 08 小中連携 酒井 英樹
- 14 GET 津久井 貴之/Matthew Miller
- 16 GET Plus 中島 真紀子
- 17 題材紹介① 中西 浩一/横川 博一/田中 武夫/山本 崇雄
- 18 USE Read(読むこと) 池野 修/Thomas Hardy
- 20 USE Write(書くこと) 工藤 洋路
- 22 USE Speak(話すこと[発表]) 今井 裕之
- 24 Take Action! Listen(聞くこと) 松沢 伸二/田嶋 美砂子
- 27 題材紹介② 佐藤 臨太郎/佐々木 顕彦/重松 靖/坂本 ロビン
- 28 Take Action! Talk(話すこと[やり取り]) 今井 裕之/谷口 友隆
- 31 音声 金丸 紋子
- 32 Project 工藤 洋路/鈴木 悟
- 36 自律的学習 巨理 陽一

新時代のNEW CROWN

NEW CROWN 代表著者 根岸 雅史 (東京外国語大学)



子どもたちの生きる世界に必要な力の育成

令和3年(2021年)度版NEW CROWN(以下、03NC)が完成した。この教科書を使う子どもたちはどのような世界に生きることになるのだろうか。この半世紀を考えただけでも、グローバル化は急速に進み、異文化との接触は一部の人々のものではなくなった。03NCを手にする子どもたちが生きるのは、誰彼なしに異文化との接触が起ころうとする時代だ。

こうした状況を踏まえ、03NCの編集にあたっては、次の4つの力の育成を目指した。

① ことばを使う力を育てる

ことばを使って理解し、表現し、伝え合いながら、実際のコミュニケーションで活用できる確かな英語力を育成する。

② 他(人や文化)とかがわる力を育てる

さまざまな人や文化などに触れながら、社会の多様性を理解しかかわっていく力と、豊かな心を育成する。

③ 考える力を育てる

さまざまな活動を通して、目的や場面、状況に応じてコミュニケーションを図る力と、論理的・批判的に考える力を育成する。

④ 学びに向かう力を育てる

多様な学び方を体験しながら、学ぶことを楽しむ心と、主体的・協働的に学ぶ力を育成する。

小学校での学びを活かし、 中学校での学びへとスムーズに接続

学習指導要領の改訂は通常10年前後のサイクルで行われる。教育を取り巻く新しい状況を踏まえて、それまでの学習指導要領を改訂してきた。しかし、今回の改訂は単なる改訂ではない。今回は、小学校で「外国語」が教科化されたために、小中高の英語教育のブランド・デザインを作り、そこからそれぞれの学習指導要領を作成していった。同じ中学生を教えるのであっても、次期学習指導要領下では、今までとは大きく異なる学習経験を積んだ子どもたちを指導することになる。

このため、03NCも、この大きな変化に対応するつくりとなっている。今回の学習指導要領の改訂では、小学校の高学年で英語が教科化されるため、中学入学時点では、英語の文字も導入済みで、文や文構

造も基本的なものには触れてきていることになる。実は、この「触れてきている」というところが事を複雑にする。中学校に入学してくる生徒は、様々な文構造や文法事項を含む文に触れてきてはいるが、それらを明示的に指導されているわけではないのだ。

そこで、03NCでは、中学1年の前半(小中接続期)では、小学校で学んだことを思い出しつつ、そこで出会っていた文法の規則を帰納的に導くようになっている。こうすることで、生徒は「なるほど、こういうことになっていたのか」と気づくはずだ。小学校でのたくさんの言語使用経験を活かしつつ、文法の規則に生徒自身で気づいていけるような活動が用意されている。

基礎的・基本的な知識・技能を習得し、 思考力・判断力・表現力を育成

レッスン構成

昭和・平成・令和と時代を駆け抜けてきたNEW CROWNを振り返ってみると、昭和から平成の前半は、題材にチャレンジした時代、平成の後半から令和は、言語活動にチャレンジした時代と言えるだろう。骨太の題材にしっかりとした言語活動を肉づけしてきた。

近年のNEW CROWNの言語活動のチャレンジを振り返ってみると、平成24年度版NEW CROWN(以下、24NC)においては、従来のレッスン構成に大幅な改訂を施し、レッスンの前半をGET、後半をUSEとし、学びのプロセスが見える形にした。GETでは、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、文構造や文法事項、語句・表現などを身につけ、USEでは、GETで身につけた言語材料を活用して言語活動に取り組むようになった。

また、4技能のバランスのとれた育成という平成20年の学習指導要領外国語の改訂の趣旨を踏まえ、USE Readを1年後半から全レッスンに配置し読む活動を強化するとともに、Practice Write、USE Writeなどで書く活動も強化した。これらの改訂は、従来の授業からの大きな変革を迫るものであったが、その明確な趣旨はすぐに理解され、新しいレッスン構成について肯定的な反応が見られるようになった。平成28年度版NEW CROWN(以下、28NC)では、こうした状況を踏まえ、レッスン構成は大きく変更せずに、さらなる使い勝手の向上を図った。28NCのUSE Readでは、3段階のタスク構成を初めて導入した。読むことに特化したUSE Readに対して、これらのタスクは編集者側からの指導法の提案だった。

03NCのUSE Readのタスクは、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある英文の概要や要点を捉える力を養うようになっている。

読みの「本丸」となるタスクをGoalとして、意図がより明確になるようにした。そして、そのGoalに到達するための足場として、Guideを段階的に設定した。もちろん、いきなりGoalに取り組めるのであれば、これらのGuideは飛ばしてもいいだろう。Goalのタスクは定期試験を作るときにも参照できる。

USE SpeakやUSE Writeでは、既習の文法事項を活用して、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある内容を話したり書いたりする力を養う。28NCで導入したUSE Writeの協働ライティングは、今回の改訂では、各Stepの活動の意図をさらに明確化している。

03NCでは、こうした細かな改善を行っているが、すっかり定着した感のあるGETとUSEからなるレッスン構成の大枠は維持されており、教科書を使う先生や生徒には大きな安心材料となるだろう。

語彙の扱い

次期学習指導要領においては、中学校で扱う単語に大きな変化がある。小学校で扱うのは600~700語程度の語があるが、ここには重要な基礎語彙の他に、食べ物やスポーツ、動物などの具体的な名詞も含まれている。しかもそれらの扱いも様々である。中学校では、小学校で扱われた語に1,600~1,800語程度の新語が加わる。つまり、これまでは中学修了時まで1,200語程度だったものが、小学校の語彙と合わせると2,200~2,500語までのレンジを教えることになる。教科書のページ数が倍になっているわけではないので、すべてを文脈の中で出すことはできない。そのため、活動のモデル文、Word Bankや巻末の「いろいろな単語」などで提示し、練習活動や言語活動の中でくり返し活用できるようにしてある。

さらに、これだけの数の単語を扱うためには、授業でどう扱っていくかも重要となるだろう。そのための1つの考え方が、受容語彙と発信語彙の区別だ。03NCでは、発信語彙を太字で示したり、受容語彙のうち話題語を他と区別して示したりしているので、指導上の判断をする際に活用されたい。

5領域のバランスに配慮し、対話的な学びや深い学びを引き出す言語活動が充実

次期学習指導要領では、従来の4技能から、「聞くこと」「読むこと」「話

すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5領域となった。「話すこと」が、「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分けられている。「話すこと[発表]」では、1人の話し手がずっと話すのに対して、「話すこと[やり取り]」では、複数の話し手が交代で話していく。

実は、28NCでは、これを先取りするように、2種類の「話すこと」のタスクを用意していた。03NCでは、これまでの「話すこと[発表]」と「話すこと[やり取り]」のタスクをさらに進化させた。何かのモデルをもとに、自分で準備して話すことができる「話すこと[発表]」と違って、「話すこと[やり取り]」はその展開の予測が困難で、会話のモデルを暗唱するだけでは、現実にはその能力を養うことはできない。そこで、「話すこと[やり取り]」に対応するTake Action! Talkのタスクでは、どのような視点で即興的に会話を続けていけばよいかが表示されている。また、「話すこと[発表]」に対応するUSE Speakのタスクでも、即興の要素を必要に応じて取り入れている。

他には、「聞くこと」のTake Action! Listen、「読むこと」のReading for Information、複数の領域統合型の言語活動を配したProjectなども目を引くだろう。Reading for Informationでは、オーセンティックなテキストを、ある目的を持って必要な情報を探すようなタスクが設定されている。これらの言語活動では、目的や場面、状況が明示され、対話的で深い学びを実現するようになっている。

生徒の知的欲求にこたえる題材、人間教育に資する題材を選定

NEW CROWNと言えば、深みのある題材で高い評価を得てきた。キング牧師を代表とする人権問題、広島を扱った平和教育、その他、ことばと民族などの定評のある題材は、03NCでも引き継がれた。また、2年の“My Dream”では、改訂ごとにその夢の中身をえてきたが、今回は、農家を志すという夢を扱っている。さらに、大気中の水分から飲み水を作るといふ、いわゆる科学的なトピックも新たに取り入れた。最後に、3年の“Imagine to Act”は、中学校から飛び立つ生徒たちに向けた私たちからのメッセージである。

私たちは、03NCで学んだ子どもたちが、来るグローバル化する世界を軽やかに駆け巡る姿を想像している。

表紙にこめた想い

表紙は、3年間の中学生活で、さまざまな人や文化と出会い、新たな世界や社会を探求しながら学び、無限の可能性を秘めた未来へとばたいてほしいという願いをこめ、「出会い」「探求」「旅立ち」をテーマとしています。



出会い



探求



旅立ち

03NCにおける語彙選定と語彙指導の工夫



日基 滋之
(玉川大学)

03NCにおける語彙選定

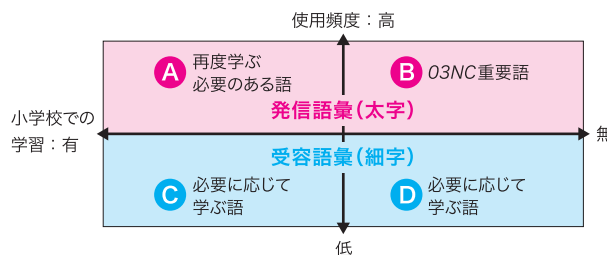
新学習指導要領によると、語彙数の目安として、中学校では、小学校で学習した600～700語に加えて、1,600～1,800語程度を扱うこととしている。教科書を使う生徒にとって有用な1,600～1,800語を、どのように選定し、どのように活動を通して定着させていくかはきわめて大切な問題といえる。

03NCでは、Longman Dictionary of Contemporary English

(LDOCE), CEFR-J Wordlist, JACET8000, Learner Corpora (中学生のスキット、日本文化紹介、スピーチ、将来の夢、英文日記を収集・分析したコーパス)、英検、中学校検定教科書、小学校外国語教材 We Can! 等を使用し、中学生にとって必要な語彙を絞り込み、03NCコーパスを構築した。

03NCの4つの語彙カテゴリ

新学習指導要領では、上述の語数を一律に教えるのではなく、**受容語彙**(「聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき語彙」と**発信語彙**(「話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙」)の区別を明確にすることを求めている。これを受け、03NCでは、03NCコーパス内に「使用頻度」と「小学校での学習の有無」の2つの基準を設け、語彙を4つのカテゴリに分類した。



「使用頻度」による発信語彙と受容語彙の選別

● 発信語彙

LDOCEでの頻度や、CEFR-J Wordlistの語彙レベルを考慮しつつ、全ての中学生に発信語彙として身につけてほしい語を選定した。

● 受容語彙

03NCコーパスのうち話し言葉での使用頻度が低い語については、全ての生徒にとっての発信語彙ではないが、必要に応じて学ぶべき受容語彙とした。

03NCの4つの語彙カテゴリ

上述の発信語彙・受容語彙の考え方に、小学校で扱った語を考慮し、03NCでは4つの語彙カテゴリを設けた。なお、小学校で扱った発信語彙・受容語彙の指導の工夫については、右ページを参照されたい。

● A 発信語彙で、小学校で学習した語

中学校での新出語ではないが、中学生が再度学ぶ必要のある語として、各ページの脚注と巻末「単語の意味」に太字で掲載した。

● B 発信語彙で、小学校で学習していない語 (03NC重要語)

中学校で新出の発信語彙。各ページ側注のWords欄と巻末「単語の意味」に太字で掲載し、重要語として扱う。

● C 受容語彙で、小学校で学習した語

必要に応じて学ぶ語として巻末「単語の意味」に細字で掲載した。

● D 受容語彙で、小学校で学習していない語

中学校で新出の受容語彙。各ページの側注のWords欄と巻末「単語の意味」に細字で掲載し、必要に応じて学ぶ語として扱う。

03NCにおける語彙指導の工夫

小学校で扱った語のリサイクル — 繰り返し提示し定着を図る

小学校で学習した語のうち、発信語彙にあたる語(左ページA)は、本文中で必ず扱い、各ページの脚注に再掲することで、中学校で再度つづりの指導がしやすいように工夫した。また、小学校で学習した全語について、1年巻末「いろいろな単語」で☆印をつけリスト化し、参照できるようにした。ここでは例文を使っての対話練習が可能になっており、生徒によっては受容語彙から発信語彙へと変化していく語彙として練習活動ができるように工夫をしている。



1年 Lesson 1 Part 1 ③

活動と語彙指導の連携 — GET Plus, Word Bank, Drill, 巻末「いろいろな単語」の活用

語彙をスムーズに導入するために、03NCでは、活動と語彙をセットで提示し、活動を通して語彙を習得できるよう工夫している。

GET Plusに隣り合うページにはWord Bankがあり、イラストとともに語彙が提示されている。Word Bankでイラストを見ながら語彙を学習した後は、それらを思い起こしながら、GET PlusのExerciseの活動をするすることで、語彙をただ丸暗記するのではなく、自分や友達のこと引き寄せて、コミュニケーションの場面や状況を意識した対話活動を行うことができる。

また、GETのPOINTと連動するDrillでも、イラストとともに語彙を提示し、場面や状況を意識することで語彙の習得につながるよう工夫されている。

さらに、巻末「いろいろな単語」には語彙がトピック別に整理されているので、GET PlusのExerciseやDrillの発展活動として、自由に語彙を選び、自己表現の活動へとつなげることもできる。

1年 GET Plus 6



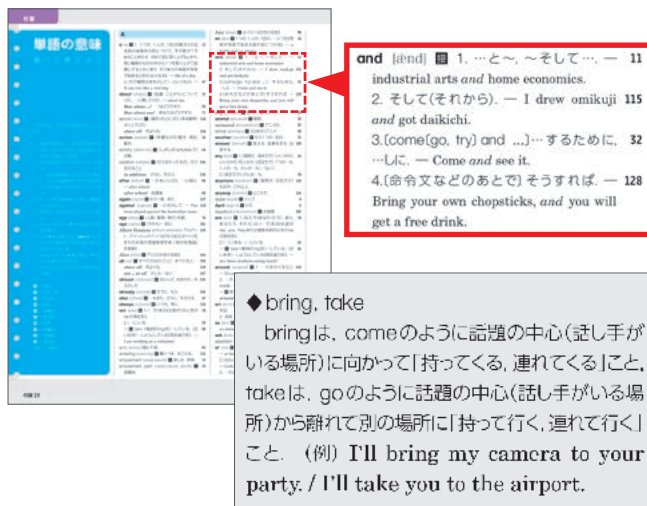
Exercise 2
p.139のWord Bankから動作を1つ選んで、してほしいことを依頼したり、依頼に応じたりしよう。

巻末「単語の意味」の活用 — 辞書指導や類義語指導に活かす

辞書指導は自律的な学習者を育てるうえで、欠かすことのできないものである。しかし、中には、通常の辞書に掲載されている膨大な見出し語・品詞・語義の中から、教科書の英文中で使用されている意味を探ることが容易でない生徒もいると思われる。巻末「単語の意味」はmini dictionaryの役割も担っており、『エースクラウン英和辞典』に準拠しながら、教科書中で使用されている品詞・語義に絞って掲載している。そのため、辞書引きを苦手とする生徒にとって、一般の辞書よりも簡便に、検索性よく使用することができるだろう。辞書を使う前の足がかりとして活用してほしい。

さらに、巻末「単語の意味」には、「◆big, large, great」をはじめ「◆bring, take」、「◆come, go」などの類義語についてのコラムがある。教科書の英文の例だけでは理解しにくい類義語の意味の違いについて説明しているので、語の使い分けについての的確に知ることができる。

1年 巻末 単語の意味





竹内 理
(関西大学)

03NCの文構造と文法事項

文構造や文法事項の扱い

文構造や文法事項の扱いは、03NCでどう変わったのであろうか。その前に、3つの重要なポイントを確認しておきたい。1つ目は小学校における学びの影響である。外国語（英語）の教科化に伴い、**小学校では、基本的な表現として代名詞や動名詞、過去形などを含む文が、コミュニケーション活動の中で扱う言語材料として導入されることになった。**これらの影響は決して軽くなく、中学校での文法事項の導入順序やそれぞれの事項の重みづけにも影響が出ることになる。

2つ目は、高等学校における学びの中学校への移行の影響である。新学習指導要領により、これまでは高校で扱われていた文法事項のうちいくつかは、中学校での学びに加えられることとなった。これらを従来と変わらない時間数で取り扱うためには、小学校での既出事項を前提にして中学校での学習事項の扱いにメリハリをつけていく等の工夫が、強く求められることになる。

3つ目は、学びの焦点の置き方である。文法事項を学ぶ理由は、「コミュニケーションを支える」重要な役割があるからで、「内容を伴う豊かなコミュニケーション」を円滑に進めるために学んでいるのだ、という目的意識を失わないよう留意したい。そのためには、目的や場面、状況等を設定し、使用事例を見せながら生徒の気づきを促すような帰納的な教え方を採用する必要がある。

以上のような前提をもとに、まずは文法事項の配列の変化を見てみよう。03NCでは、小学校での学びを踏まえ、文法事項の配列とその扱い方が大きく変わっている。例えば右表にあるように、03NCでは

be動詞と一般動詞が1年 Lesson 1で同時に取り扱われる。従来この両者を一度に扱うことは、生徒の混乱を招くおそれがあるため、「避けるべきこと」とされてきた。しかし小学校の学びで頻りにこの両事項を使用してきたことを考えれば、そのインプットを活用してまとめて扱い、改めて比較したりすることで明示的に整理するという指導が可能になる。また、1年で過去・現在・未来という基本的な時制を学び、2年では現在完了形まで扱うことで、3年冒頭の現在完了進行形に向けて余裕をもって学習することができる。なお、受け身形が3年の導入となっているが、これは現在完了形と比べてその使用頻度或使用場面が限定されていることを鑑みての対応となる。加えて、過去分詞を扱った後に、句による修飾から節による修飾へ（受け身形→後置修飾→関係代名詞）という連続した流れを作り、学習の負担を軽減する意図も込められている。

03NCで扱う主な文法事項（丸数字はLesson番号）

	28NC	03NC
1年	① be動詞（1・2人称） ③ 一般動詞（1・2人称）	① be動詞と一般動詞（1・2人称） ⑧ 未来を表す表現
2年	③ 未来を表す表現 ⑧ 受け身形	⑥⑦ 現在完了形
3年	②③ 現在完了形	① 現在完了進行形 ② 受け身形 ⑥ 仮定法過去

POINT

文法事項は、従来どおり基本文としてGETのPOINTに提示しているが、文法事項に応じて①既習事項との対比での提示、②文脈での提示、③単独での提示のいずれかを採用し、わかりやすく示している。右の例は①既習事項との対比の例であるが、その意図がわかりやすいように、ペンギンのキャラクターの発問を使い、生徒の気づきを促すような工夫も加えている。

POINT

Tom studies math every day.
Tom is studying math now.

動詞の形に注目して、2つの文を比べよう。

every dayとnowのちがいを考えながら、2つの文を比べよう。

動詞の形に注目して、2つの文を比べよう。

1年 Lesson 5 GET Part 1 POINT

GET Plus

文法事項を扱うセクションとして、03NCではGET Plusが新設されている。ここでは3コマのイラストで場面を提示し、短い対話文の中で文法のルールや語句のコンビネーションを学ぶことになる。また、右ページのWord Bankに示されている語句を使いながら練習を繰り返す、自動化も達成できるように企図している。ここでは、You look (1年 GET Plus 5), Can you ...? (1年 GET Plus 6), how to ... (2年 GET Plus 5), If I were you, (3年 GET Plus 2)等、かたまりとして出会い、さっと使えるようになってほしい項目が扱われている。また、それぞれに言語の働き(ファンクション)を提示することで、その使用目的についても理解が進むよう編集されている。なお、GETのPOINTおよびGET Plusで学習した項目を含む文は、巻末「基本文のまとめ」に一括再掲している。ここでは左に英文、右に日本語訳を併記し、チェックボックスも設けて、総まとめが容易に、しかも自律的にできるよう工夫されている。

1年 GET Plus 6

文法のまとめ と 英語のしくみ

28NCで好評をいただいた巻末「絵でわかる英語のしくみ」をさらに充実させ、「文法のまとめ」と同じページにまとめた。これをいくつかのLessonごとに配置し、できるだけ直近で復習とまとめを行えるよう配慮した。また、気づきを促したい箇所には、ペンギンやシロクマのキャラクターを配置し、生徒の注意をひくように心がけた。ここで取り扱う内容は、Lessonの中では扱いづらい日本語と英語の違い(1年 文法のまとめ 1)、認知言語学的な知見に基づいた前置詞の説明(2年 文法のまとめ 3)、さらには情報構造による受動態と能動態の使い分け(3年 文法のまとめ 2)など多岐にわたっており、単なるまとめに終わらず、新たな視点で文法事項を見つめ直す材料として利用できるセクションと考えている。

2年 文法のまとめ 3

これからの文法指導

教科書紙面での新展開や工夫と同じぐらいに、いやそれ以上に大切なのは、文法事項をどう教えるかという指導法の改善であろう。新学習指導要領下では、小学校での学びを含んで考えなければ、教えるべき文法事項が増加したうえに時間数は変わらないという状況に見えるため、できるだけ効率的に教えようとして、一方的な教え込みと機械的な練習に終始してしまう危険性がつきまとう。

『中学校学習指導要領解説 外国語編』でもこの点に懸念を示し、文法のための文法学習にならないよう警鐘を鳴らしている。たとえば「文法とコミュニケーションを二項対立的」に取り扱うことのないよう、あくまでもコミュニケーション活動の基盤として文法を位置づけること

や、意味ある文脈の中で活用しながら文法事項を学ぶ必要があること等が強調されている。さらには既習事項と新出事項を関係づけながら教えることや、インプットからアウトプットへと段階的に発展していく中で、文構造や文法事項を意識させるような教え方が大切であることにも言及がなされている。加えて、文法事項を使って「何ができるのか」に着目した評価を行うべきことなども、繰り返し述べられている。

教師は「自分が教えられたようにしか教えられない」とよく言われる。確かに新しい教え方のハードルは高い。しかし諦めることなく、その通説が過去のものとなるよう、努力を続けていきたいものである。

小中接続期のレッスン構成

(1年 Lesson 3まで)

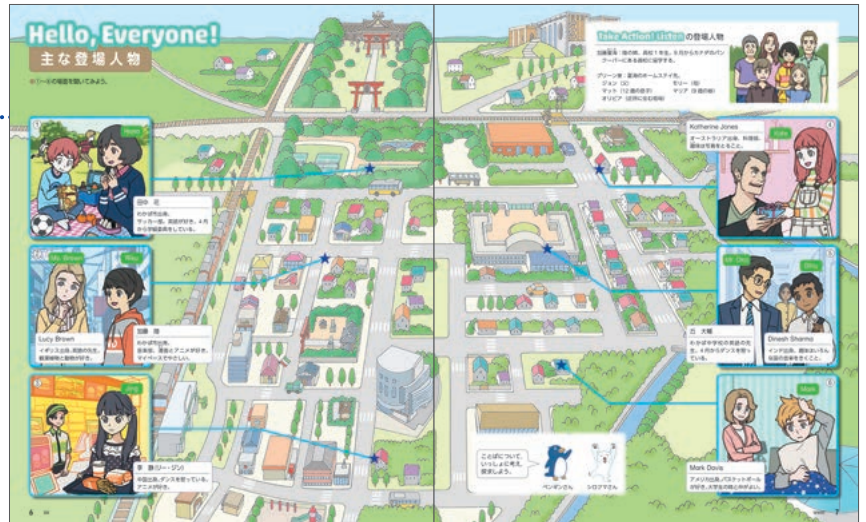
小学校での学びを

小学校3・4年の外国語活動(週1時間)では、簡単な語句や表現を用いてコミュニケーションする活動が行われ、小学校5・6年の教科としての外国語(週2時間)では、目的や場面、状況に合わせて聞いたり話したりする活動が行われている。03NCの小中接続期(1年 Hello, Everyone! からLesson 3)では、小学校での学びを活かし、中学校での学びへとスムーズにつなぐ構成となっている。

Hello, Everyone!

小学校で学んだことばの使用場面と語句・表現をふり返ります

小学校で体験した場面や、それに似た状況での会話を聞いたり、見たりして、会話の場面と使われている語句・表現を確認し、これまでの学びをふり返ります。



Starter 1

小学校で学んだアルファベットと文字の読み方をふり返ります

アルファベットの文字を読んだり、アルファベットの大きな文字や小さな文字を書いたり、単語を声に出して言ったりします。アルファベットの絵カードには、小学校で学んだ単語がイラスト化され、散りばめられています。



Starter 2 3

小学校で学んだ身近なことについての会話と語句・表現をふり返ります

聞いてみよう

小学校で体験した場面や、それに似た状況での会話や発表を聞いたり、見たりして、これまでの学びをふり返ります。

話してみよう

「聞いてみよう」で確認した話題や会話の流れ、語句・表現を参考にして、ペアやグループで会話したり、発表したりします。



活かし、中学校での学びへとスムーズに接続

Lesson 1 Part 1

🎧 聞いてみよう

小学校で体験した場面や、それに似た状況での会話や発表を聞いたり、見たりして、これまでの学びを振り返ります。



🗨️ 話してみよう

「聞いてみよう」で確認した話題や会話の流れ、語句・表現を参考にして、ペアやグループで会話したり、発表したりします。

POINT Drill

POINTでは、前のページで聞いたり、話したりした英文を取り出して整理し、**文構造や文法のルール**を理解します。

Drillでは、POINTのターゲット文の語句を入れ替えながら、**くり返し練習**し、**基礎的な力**を身につけます。

📖 Read 🖋️ Write

Readでは、小学校での学びと、POINTで整理し、理解した知識を活用して、30~40語程度の**短い初見の英文**を読む力を養います。

Writeでは、小学校での学びと、POINTで整理し、理解した知識を活用して、**まとまりのある短い英文**を書く力を養い、**ライティングの型**を身につけます。

小中接続期のポイント① 文字・音声の指導



酒井 英樹
(信州大学)

小学校の文字指導

小学校での英語の文字の学習は、第3・4学年の外国語活動において「聞くこと」の領域で導入され、英語の文字の名称が発音されるのを聞いて、その音を持つ大文字や小文字を特定する（つまり、/kei/ や /ti:/ といった音を聞いて、K / k や T / t の大文字や小文字を特定する）ことから始まる。高学年の外国語科では、大文字・小文字を見てその名称を発音することや、それらを何も見ずに書くことが求められる。その際、文字の形を正しく認識させるために、小学校では

4線の上を書くように指導することが多い。エックス・ハイト（第2線と基線の幅）の比率が大きい4線が用いられることが多いが、教科書によって比率が異なるので、生徒がそれまで使用してきた4線の幅を確認しておくといだろう。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を書き写すことも指導されているが、語句のスペリングを覚えることや語順を理解することまでは指導目標としていないことにも留意する必要があるだろう。

小中接続期の文字指導

小学校の文字指導を引き受け、1年 Lesson 1～3においては、「語句や表現を4線の上書き写すことができる」ことから、「英語を書くときのルールを知り、1線の上に語句や表現を書くことができる」ようになることを目標とした。

Lesson 1：文頭の大文字／ピリオド、疑問符、コンマなど

Lesson 2：ヘボン式ローマ字／単語を書くときの留意点

Lesson 3：アルファベットの書き方の留意点

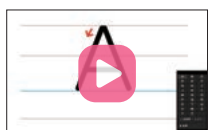
その際、文字単独の学習にならないように、直上にある **Write** の活動と関連づけながら、学習できるように工夫した。例えば、Lesson 1 Part 1では、プロフィールカードを書くという自分の名前を書く必然性のある状況の中で、文頭の大文字やピリオド等のルールを学習できるようにしている。このように、ルールを教え込むのではなく、言語活動と関連づけながら必要なタイミングで知識を吸収し、活用しながら学べるように指導してほしい。

1年 Lesson 1 Part 1 ③



スムーズな小中連携を実現するための、文字指導の3つの工夫

①アルファベットの書き順ムービー



QRコードを読み取れば、アルファベットの書き順を復習できる動画が再生される。

②手書き文字書体の使用



読みやすく、まねしやすい、生徒の手本となるオリジナル書体を使用。

③文字を書きやすい4線の幅



大文字・小文字がきれいに書ける間隔の4線を使用。

小中接続期のポイント② 1年 Lesson 1～3の指導



酒井 英樹
(信州大学)

Hello, Everyone!, Starter, Lesson 1～3は、小学校での学びを振り返り、中学校での学びにスムーズに接続するためのレッスンである。中でも、Lesson 1～3は、聞くこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]に加えて、(初見の英文を)読むこと、(まとまりのある英文を)書くことといった5領域を扱う、いわば小中橋渡しのレッスンになる。ここでは、Lesson 1 Part 1を例に指導の流れを見ていく。

🎧 聞いてみよう

小学校の「聞く活動」では、英語が話されている場面や状況をとても大切にしている。場面や状況によって聞く目的も異なる。たとえば、夏休みにしたことを話している場面ならば、何を体験したのかという具体的な情報を聞き取ることが目的となる。また、与えられた状況から手がかりを探し、それらを踏まえて、内容を推測しながら聞くなど、あらかじめ場面や状況を確認した上で、英語を聞く活動も行われている。

03NCでは、「聞いてみよう」というパートを、Starterに4回、Lesson 1～3に8回設定している。これらは、小学校で体験した聞く活動を受け、設定された場面や状況に応じて、自分のことや、日常生活に関する身近で簡単なことについて聞き取る活動だ。たとえばLesson 1では、英語の授業の場面での友だちの簡単な自己紹介を聞き取る。またLesson 2のEnglish Campでは、得意なことやペットなどについて、より深く自分を知ってもらえるように工夫された自己紹介を聞き取る。他にも、道案内や買い物、転校生とのやり取り、地域紹介などの場面や状況を取り扱っている。

💬 話してみよう

小学校で体験する「話す活動」でも、英語を話す目的や場面、状況が大切にされている。それは、目的や場面、状況によって、伝える内容や伝え方が変わるからである。聞き手との関係を考えながら、好きなこと、いつもすることなど、身近な話題について話すことが指導されている。

03NCでは、「聞いてみよう」とセットで、「話してみよう」というパートを設定している。「聞いてみよう」と同様、小学校で体験した話す活動を受け、場面や状況に応じて、自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単なことについて話す活動だ。たとえばStarter 2では、クラスの時間割表を見ながら、好きな教科や得意な教科などについて話したり、Lesson 3では、自分たちの身の回りにあるものを紹介したりする。また、「話してみよう」は、小学校での学びをふり返るだけでなく、生徒の英語力を診断することができる活動でもある。生徒の実態に応じて、「聞いてみよう」で聞いた内容や英文を参考に話す活動に取り組ませ、中学校の学習の入り口として効果的に活用することもできる。

1年 Lesson 1 Part 1 ①

🎧 聞いてみよう ジン、マーク、花が自己紹介をしています。どんなことを話しているか聞いてみよう。

🔍 Check それぞれが話した内容に合うものに○をしよう。

<p>Jing</p> <p>出身国</p> <p>中国</p> <p>アメリカ</p> <p>人柄</p> <p>元気な子 おしゃべり</p>	<p>Mark</p> <p>好きなもの</p> <p>ギター サッカー</p> <p>字の書ける おしゃべり</p> <p>Sat. Sun</p>	<p>Hana</p> <p>得意なこと</p> <p>ダンス 絵画</p> <p>毎週練習する おしゃべり</p>
--	---	--

Part 1 ①

💬 話してみよう 聞いてみようを参考にして、ペアやグループで、自己紹介をしよう。

📝 Note 相手についてわかったことを書こう。

名前	わかったこと

📌 ① 相手の好きな教科は特に大事です。会話のきっかけにして、練習できるようにしよう。

📌 ② Jing ジン (p.14) (E:R3)
Mark マーク (p.15) (E:R3)

📱 QRコード

レッスン構成

(1年 Lesson 4以降)

ねらいを意識して
学習に取り組めるよう、
各ページの役割を明確化

学習の流れがわかりやすい
構成になるよう、
学びのプロセスを見える化

1 学びの見通しを立てる

とびら

Lesson 5
School Life in the U.S.A.



① Where does this bus go?

写真や動画を使ったイントロダクションで、これから学ぶ内容への**動機づけ**を行い、Lessonの**題材や場面、活動内容**を確認します。

3 知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を養う

USE

The screenshot shows a digital learning environment. On the left, there's a sidebar with navigation options like 'Lesson 5', 'USE Write', and 'USE Speak'. The main content area displays a lesson page for 'Lesson 5: School Life in the U.S.A.'. It features a reading passage with two paragraphs and a small image of a person reading. Below the reading is a writing task: 'Dear friends, Here are pictures of my friend and me. We do many things after school. I am in the first picture. I am working as a volunteer. I am reading a book with a child. She is lovely.' There are also images of a person playing football and a person running. On the right, there's a 'Test Words' section with a list of words and their meanings, and a 'Check' section for feedback.

Read

GETで身につけた知識・技能を**活用し**、目的や場面、状況に合わせて、メールや新聞記事など、多様なジャンルの英文を読み、その**概要や要点を捉える力**を育てます。

Write

GETで身につけた知識・技能を**活用し**、目的や場面、状況に合わせて、まとまりのある英文を書いたり、協働作業を通して、**ライティングの型**を身につけ、**書く力**を育てます。

Speak

GETで身につけた知識・技能を**活用し**、目的や場面、状況に合わせて、意見や考えを効果的に伝えるための**音声の工夫**について考え、スピーチなどの活動を通して、**発表する力**を育てます。

② 基礎的・基本的な知識・技能を習得する

GET

マークがクラスみんなに、アメリカの学校生活について話しています。

Students choose their own classes at this school. Every student has a different schedule.

Look. This boy is going to his music class. He is holding a flute case. This girl is carrying her gym shoes for P.E. class.

Do the boy and girl have the same schedule?

POINT

Tom studies math every day.
Tom is studying math now.

every day と now のちがいを考えながら、2つの文を比べよう。

動詞の形に注目して、2つの文を比べよう。

Listen

マークが、写真を見せながら友だちのジョン (John)、エミリー (Emily)、ブライアン (Brian) について話しています。A-J の人からジョン、エミリー、ブライアンを選びなさい。

① John () ② Emily () ③ Brian ()

Speak & Write

(1) 絵を見て、世界の中学生が何をしているか説明しよう。

It's five o'clock in Wakaba City, Japan. Hana is practicing soccer.

5:00 p.m. (Hana) 1:30 p.m. (Sunny) 9:00 a.m. (Jane) 1:00 a.m. (Kevin)

Wakaba City, Japan New Delhi, India Edinburgh, the U.K. Seattle, the U.S.A.

Word Bank

study math
数学を勉強する
be in P.E. class
体育の授業中である
sleep
寝る

Drill 1 Listen / 2 Repeat / 3 Say

write a letter
cut a carrot
sleep
Sunny ワン-15B3

文構造や文法事項を理解し、語句を置き換えるドリル練習や、意味のある短い文脈を使った、聞く・読む・話す [やり取り]・話す [発表]・書く活動を通して、活用に向けた基礎的な力を身につけます。

④ 学びをふり返る

Take Action!

Take Action!

ABC ケーキはどこですか

映画の紹介

この映画の全体の内容を聞き取る

STAGE 1 Get Ready

1. 映画の予告編を聞き、あなたは何を知りたいですか。
2. 右の Expressions を参考に、映画の予告編で使われる表現を確認しよう。

STAGE 2 Listen

1st Listening 2つの映画の予告編を聞いて、それぞれのあらすじをまとめよう。

① Magic Journey
② Detective George

2nd Listening 聞き取れなかった部分に注意しながら、もう一度聞いてみよう。

3rd Listening 各本の Audio Scripts を見ながら音声を確認しよう。

STAGE 3 Think & Act

あなたは、どちらの映画を見たいですか。それはなぜですか。

What Can I Do?

What Can I Do?

あなたはこの1学期の学習の中で、できることになったことリストです。これらの中から興味を持って、自分の力で(得意なものはすべて)O/O 印ができるもの、このリストを完成させてください。

Talk 話すこと(やり取り)

自分で伝えよう

自分の得意なことや好きなことについて、即興で伝え合うことができる。

Read 読むこと

短く簡単なアンソングや童話を聞いて、重要な情報を聞き取る。

Read 読むこと

ドラッシュや短編小説などを読んで、自分が必要な情報を読み取ることができる。

Write 書くこと

自分の好きな短い文脈を書くことができる。

自分の好きな短い文脈を書くことができる。

学校行事や即興について、短く簡単な記事や紹介文を書くことができる。

Listen

オーセンティックな場面設定と、ねらいを明確にした聞く活動を通して、目的や場面、状況に合わせた聞き方を学び、リスニングの力を養います。

Talk

身近な話題や、日常的な話題について、言語の使用場面や働きを整理し、目的や場面、状況に合わせて、即興で伝え合う力を養います。

4技能5領域の目標をCAN-DO形式で示し、1年間の学習を通して、どんなことができるようになったか、自己評価し、学習をふり返ります。

「生きて働く『知識・技能』」の習得を促すGET



津久井 貴之
(お茶の水女子大学
附属高等学校)

はじめに

新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の3つの柱として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が示された。その1つである「知識及び技能」は、「生きて働く」、つまり社会におけるさまざまな場面で活用できるものとして習得・習熟を図る必要がある。中学校の外国語科では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きといった個別の知識を、5つの領域における実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付ける。これを体現すべく構成されたのがGETのページである。右ページには1年

Lesson 5 GET Part 1を例示している。このGETの左ページで気付いたり理解したりした知識を、右ページでさまざまな言語活動を繰り返し行う中で活用し、理解や習熟を深めることをねらいとした構成になっている。

この見開きの2ページで、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」という5つの領域に関わる基本的な学習や活動をバランスよく行うことができ、「知識及び技能」を「生きて働く」ものに高めていく工夫がされている。

場面や状況を確認し、本文の内容を導入する

まず本文を読む前に、リード文(右図①)で本文の場面や状況を確認することができる。右図の例では、話し手(マーク)と聞き手(クラスメイト)、場面(アメリカの学校生活を説明する)が示されている。リード文の内容を教師が英語で導入したり、ティーチャー・トークの中で扱ったりすることもできるだろう。さらに、リード文から考えられる本文の内容について、あらかじめペアやグループでやり取りさせたりすれば、「聞くこと」や「話すこと [やり取り]」→「読むこと」という指導手順も可能である。

本文(右図②)は、40~50語程度で構成されており、その中に新出文法事項(ここでは現在進行形)が組み込まれている。場面や状況が明確に設定されていることは、その文法事項の言語の働きを

理解するのに役立つだろう。現在進行形を導入し、教師の説明やDrill(右図⑤)を終えた後であれば、本文中の動詞を-ing形や現在形など適切な形に変える活動を行ったり、オーラル・インタラクションで本文の写真を取り上げて生徒とやり取りをしながら、当該文法事項を使った発話を促したりする活動も考えられる。

また、内容理解を促したり、「読むこと」の技能を身に付けたりするために、本文の内容を確認する質問(右図③)が1つ掲載されている(教師用指導書やデジタルテキストでは、補充の質問などを収録している)。本文全体を読んで概要や要点を捉えるための質問などが厳選されている。あわせて、文中の図や写真に関する質問を投げかけたりすれば、読み取りのポイントを明確にして読ませることもできる。

POINT Drill 新出文法事項の意味と形式を学び、練習で定着を図る

GETのPOINT(右図④)には新出文法事項が提示されている。文法事項に応じて、既習の文法事項と比較対照したり、文脈で提示したりすることで生徒の理解を促すことができるよう工夫している。

また、文法事項に関する生徒の気付きを促す工夫として、ペンギンのキャラクターの発問を設けた。これは、生徒自身が既習の知識や文法事項に照らしながら新出文法事項の意味や働きを類推し、Drillや教師の英語による問いかけ、オーラル・イントロダクションなどを通して自ら文法のルールや機能を身に付けられるようにするためである。

導入段階では文法事項の説明を最小限にし、いくつかのLessonごとに、「文法のまとめ」として学習した文法事項の説明を整理した。英語による新出文法事項の導入や生徒の気付きを促す活動を妨げないようにし、帰納的な学習ができるようにした。

Drillでは、基本本文や新出語句・表現の口頭練習を十分に行うことができる。 कोरोケーションに配慮し、かつ生徒に身近な言い回しを多く扱っている。表現の幅が広がることで、学習した文法事項を使用する機会や場面も広がり、どちらもより一層の定着を図ることができる。

Listen Speak Talk Write 場面の中で練習し、理解から表現へとつなげる

Listen(下図⑥)では、場面が明確に設定されており、聞く目的をしっかりと持たせて活動を行わせることができる。このListenはGETの本文の続きや関連のある内容、登場人物のサイドストーリーなどを聞き取る構成になっており、生徒たちも楽しく活動に取り組めるだろう。

SpeakまたはTalk(下図⑦)では、新出文法事項を用いて自力で表現する練習を行う。GETの後にはUSEなどの自己表現活動が続く。その一歩前の支援、いわば「橋渡し」の活動でもある。生徒にとって身近な場面やよく使う表現で、さらに習熟を深めていきたい。また、Speak/Talkの後にWriteが配置されている。話したことを書くことで、正確さを意識させながら、定着を図ることができる。

新学習指導要領の「話すこと」の2領域で示されたこれまでのスピーキング指導の課題を踏まえ、原稿を書いてそれを読み上げたり、暗記して発表したりするのではない、真のスピーキング能力を伸ばすことをねらいとしている。

最後に、語彙や文法などの知識は、スパイラルに英文で触れたり言語活動で用いたりする中で定着していく。03NCでは登場人物の性格や特徴などが3学年を貫いてしっかり設定されている。それを生かし、生徒のこれまでの経験や言動などについて教科書を振り返るような発問を教師が投げかけ、既習Lessonや前学年の教科書を開いて、本文中の既習表現に何度も触れるなどして言語材料の習熟を図ることができる。また、本文の登場人物の会話の一部を隠して生徒に予測させれば、英語のやり取りの流れや会話の広げ方、つなげ方を学ぶ教材として再活用することも可能だ。生徒とともに楽しみながら教科書を使ってもらいたい。

実際のコミュニケーションを図るうえで土台となる、「生きて働く」知識を身に付け、技能を習熟・熟達させるための大事な2ページとして、その特徴を生かし、さらに先生がたの工夫や味付けを加えて楽しくかつ充実した学習・活動に活用していただきたい。

The screenshot shows the GET Part 1 lesson page for Lesson 5. It is divided into several sections, each marked with a red circle and a number:

- 1**: Introduction text: "Students choose their own classes at this school. Every student has a different schedule." and "Look. This boy is going to his music class. He is holding a flute case. This girl is carrying her gym shoes for P.E. class." Below this is a photo of a boy and a girl.
- 2**: Reading text: "Do the boy and girl have the same schedule?"
- 3**: A 'POINT' section with a diagram showing a boy and a girl.
- 4**: A 'POINT' section with text: "Tom studies math every day. Tom is studying math now." and a diagram.
- 5**: A 'Listen' section with an audio player and a 'Word Bank' containing: study, math, practice, soccer, be in P.E. class, sleep, gym, bag.
- 6**: A 'Speak & Write' section with a 'Drill' table:

write a letter	cook curry	brush his teeth	take a bath
cut a carrot	run	watch TV	dance to music
- 7**: A 'Listen' section with an audio player and a 'Word Bank' containing: study, math, practice, soccer, be in P.E. class, sleep, gym, bag.

本文

- 1 場面を説明するリード文
- 2 本文
- 3 本文のQ&A

文法事項の導入とpattern practice

- 4 POINT (基本文)
- 5 Drill

meaningful practice

- 6 Listen
- 7 Speak/Talk/Write

1年 Lesson 5 GET Part 1

Making NEW CROWN

Creating Natural Language

For me, the most enjoyable thing about making GET was creating the dialogs and monologues. It was fun to imagine the characters' personalities and backgrounds then put them in a situation and write out what we think they would say. Researching the topics to add interesting and engaging content was gratifying as well.

The most challenging thing was in the editing. The grammar and vocabulary of each particular lesson considerably limit what the characters can say and how they can say it. We go over the text countless times to ensure everything is perfect. The end result of all of this effort is language that is both natural as well as instructive.

We hope you find *NEW CROWN* to be effective and inspiring for you and your students.



Matthew Miller
(Tokyo University of Foreign Studies)

GET Plus

モデル授業



中島 真紀子
(筑波大学附属中学校)



授業のねらい

canを使って「…していただけますか」と依頼する表現を理解したうえで、Word Bankの語句・表現を使って練習し、実際の場面で自然に使用することができるようになる。

GET Plus について

会話の場面を表す3コマのイラストと、短い対話文で、会話の中で使われる表現と言語の動きを学ぶ。また、右ページのWord Bankに示されている語句を使いながら練習を繰り返し、実際のコミュニケーションで活用する力を養う。

授業開始

① オーラルイントロダクション：ターゲット表現の導入

- (1) オーラルイントロダクションを行う。canは既習であり、依頼の表現も生徒が十分に意味を想像できるものなので、普通の授業から積極的に使用し、そのうえで指導を行いたい。その際、教師が“Can you ... ?”と依頼したら、生徒には何らかの反応や行動をさせたい。さらに、教室の中で、生徒が自然と依頼の表現を使えるような場面を設定できるとよい。まずは、同じく依頼の表現であるpleaseをつけた命令文から言わせてもよいだろう。
- (2) Can you ... ?の意味や働きを日本語で確認する。
- (3) Word Bankの語句・表現を使って置き換え練習を行う。

② Dialog：ターゲット表現の理解と整理

- (1) オーラルイントロダクションでDialogの内容を理解させる。生徒が自分のこととして考えられるよう、朝起きてすることについてやり取りをしつつ、アメリカの子どもたちはベッドメイキングをすることが多いとDialogの場面につなげる。そのうえで、ピクチャーカードを見せながら、父親がマークに何を頼んだかを想像させ、ターゲット表現に注目させたい。
- (2) 音声を聞き、必要に応じて日本語で内容や表現などの確認を簡単に行う。
- (3) 新出語句・表現の発音練習、Dialogの音読練習を行う。



③ Exercise：ターゲット表現の練習

- (1) Exercise 1の場面（イラスト）を使って、ペアで会話をさせる。教師の後にリピートさせたり、生徒同士でやり取りさせたりなど、生徒の実態に合わせて工夫をしたい。
- (2) Exercise 2ではWord Bankの語句・表現を使い、役割を交代しながらペアで自由に会話をさせる。Dialog以外の表現を使うよう促したり、Dialogの最後に英文を付け加えさせたりしたい。
- (3) Exercise 2で依頼した文を書き起こす。



授業終了

④ Try：まとめ

教師や生徒自身で場面を設定し、ペアで会話を。複数のペアに発表させ、クラスで共有する。

【ひとこと】 Dialogは短くても、自然なやり取りで場面がパッと思い浮かぶよう工夫しました。Word Bankは練習に活用でき、素敵な絵も魅力です。(中島)

題材紹介 ①

03NCでは、生徒の知的好奇心や興味・関心、発達段階に合わせて、題材を選定・配置しています。ここでは、その一部を紹介します。

1年 Lesson 7



Wheelchair Basketball

車いすバスケットボールはこれまでも取り上げられてきたが、03NCでは競技のルールや専用の車いすのことよりも、スポーツを楽しむことの意味や、世界を舞台に活躍している網本麻里さんの「生き方」から学ぶというキャリア教育の視点が重視されている。網本さんの“Have a positive attitude. Then you can enjoy your life.”というメッセージを通して、生徒たちに自分自身の「生き方」についても考えさせたい。

(中西 浩一 平安女学院大学)

Every Drop Counts

世界には水を手に入れることが難しい地域が今も存在する。そんな中、あるイタリア人建築家がWarka Water Projectを始めた。竹などを編んで作ったタワーを建てるのだ。網の繊維に雨水や霧の露などが集まり、水が溜まっていく仕組みで、電力を使わずに、自然の力を利用したものだ。本課は、課題を解決するための視点を提供してくれると同時に、他教科での学びと結びつけて考えることの大切さを教えてくれる格好の題材である。

(横川 博一 神戸大学)

2年 Lesson 3



The World's Manga and Anime

日本の漫画やアニメは、遠く離れた海外でも、文化の違いを超えて人気を獲得している。いくつかの有名な作品が海外進出した例を読み、成功した理由を知ることで、食文化や名前など身近なところから世界の文化を学ぶきっかけにしてほしい。また、漫画やアニメという、生徒にとって親しみやすい題材を用いることで、300語を超える長さの説明文でも、興味を持たせながら読解指導をすることができるだろう。

(田中 武夫 山梨大学)

3年 Lesson 4



I Have a Dream

現代の中学生にとって、半世紀も前の人種差別は身近に感じられないかもしれない。しかし、キング牧師の力強いスピーチや行動には、現代社会を生き抜くヒントが詰まっている。例えば、誰もが幸せに暮らせる世界を願い、非暴力で行動していく力は、変化の激しい今の時代にこそ必要だ。授業では、キング牧師の考えをSDGsなどの社会課題に結びつけ、どう行動するか考える活動を取り入れたい。

(山本 崇雄 新渡戸文化小中学校・高等学校)

3年 Lesson 5



コミュニケーションとしてのリーディング



池野 修
(愛媛大学)

1年 Lesson 5 USE Read



はじめに

USE Readは、読むこと (reading comprehension) をしっかり行うためのページで、さまざまなジャンルやテキストタイプの英文から概要や要点を読み取る力をつけることを目指している。新出単語は側注のWords欄に意味を提示することで、英文の内容を理解することに集中できるようにしたり、読みのゴールに向かって段階的に理解を高めることができるようなタスクを設定するなど、読む活動に取り組みやすくするための工夫を施している。USE Readの仕組みや特徴、28NCから変更した点について、1年 Lesson 5の紙面を参照し

ながら見てみよう。

USE Readは、上の図にあるように、見開き2ページ (もしくは3ページ) にレイアウトされている。左ページの上部には英文のテキストタイプ (説明文 / 物語文 / 意見文のいずれか) が示されている。Lesson 5の英文はメール文であり、その内容から「説明文」に分類される。なお、他のLessonでは、書籍 (文学作品)、ブログ、ガイドブックのコラム、インタビュー記事なども取り上げている。

読む前に— SETTING と STAGE 1 Get Ready を活用して読みの準備をする

まず、タスクの前にはSETTINGがあり、ここでコミュニケーションの場面や状況 (誰が誰に対して書いた文章なのか)、読む目的などを確認する。その下にあるSTAGE 1 (Get Ready)は、プレ・リーディング活動であり、提示されている質問に答えることで、これから読む英文に関する背景知識を活性化し、読みのハードルを下げることをねらいとしている。

Lesson 5では、2つのプレ・リーディング活動を置いている。1つ

目の「アメリカの中学校生活について知っていることを話そう」では、このLessonのGETで扱った内容を思い出させることを意識した。2つ目の「写真を見て、写っている人たちが何をしているか考えよう」は、文章を見ずに答える問いであり、英文の内容に踏み込みすぎず (文字から読み取るべき内容を先出しすることなく)、これから英文を読む必要性を失わせないようにしている。

読みながら— STAGE 2 Read において, Guide 1 & 2をステップとして Goalを達成する

STAGE 2 (Read) はUSE Readの中核部分である。このSTAGEの最後にはGoal (読みのゴールとなるタスク) が設定してあり、生徒がそのタスクを行うときの手だてになる問いが、Guide 1 & 2としてGoalの前に配置されている。28NCでは、1st Readingで概要理解、2nd Readingで詳細理解、3rd Readingで整理と、繰り返し英文を読む中で、内容理解を深めるタスク構成になっていたが、03NCでは、英文の概要や要点を捉えるゴールのタスクに向かって、ガイドとなるタスクが流れる構成に変更した。なお、Goalは、新学習指導要領の「読むこと」の目標イ「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」

あるいは「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」のいずれかに対応した活動としている。

Lesson 5のGoalは、メールの概要を表にまとめることである。そこにつながるGuide 1は「このメールは何について書かれたものですか」という発問である。メールを見たときにまずどのような情報をチェックすべきかという観点から作成したもので、“Subject: Life after School”を読み取らせることがねらいである。Guide 2は、写真の中でリサとケビンがしていることを説明した文に下線を引かせるタスクであり、これにより、Goalの表を完成させるのが容易になる。

読んだ後で— STAGE 3 Think & Write で読みを発展させる

STAGE 3 (Think & Talk/Speak/Write)はポスト・リーディング活動である。この英文を読んだ後に行う必然性のある活動は何かという点を考えて作成している。これは、新学習指導要領の「話すこと [やり取り][発表]」「書くこと」の目標ウ「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合う／話す／書くことができるようにする」につながるタスクとして位置づけ、発話や英文作成を求めている。このメールでは、締めくくりが“What do you do after school in Japan? Please send an e-mail to me.”となっていることに合わせ、「リサに返信のメールを書こう」という内容の活動とした。

最後に、一連の活動を行った後に、このLessonで確認しておきたい読みの方略をTips for Readingという形でまとめている。USE Readで実際に行った活動を一般化して記述したものであり、Lesson 5では「読む前に、タイトルや写真などから内容を推測して

みよう」「できるだけ英文の内容を絵で思い浮かべながら読んでみよう」という2つの読解方略としてまとめている。

なお、Checkは代名詞の指示対象や文章構成を表す表現をチェックしたり、文章の要点は何かを再確認したりするパーツである。代名詞については、概要や要点の理解において特に重要なものに絞ってその指示対象を確認するようにする。文章によっては、「筆者が最も伝えたいことが書かれている部分に下線を引こう」などの指示に従って、改めて要点を確認する。

このように、USE Readは本文とそれに関連するさまざまなパーツから構成されており、それらが有機的につながり、英語で読む力を向上させることができるようにデザインされている。GETの英文が文法導入という役割の強いlanguage textであるのに対し、USE Readの英文は、読みに特化したオーセンティックなreading textであることを理解したうえで、USE Readのそれぞれのパーツを有効活用して、生徒の英語リーディング能力の向上を目指したい。

Making NEW CROWN

The Big Ben Dilemma

Choosing a favorite place to explain should be easy, especially in place like London. Not always so if you are involved with textbooks. Consider Big Ben. For Londoners, Big Ben refers to the clock tower, the clock itself and the largest of the five bells. This was no problem for me. However, the multiplicity of referents was held to be a problem for our students and teachers. It was also inaccurate – and accuracy was important for those vetting the textbook.

We went around and around the problem, going through at least ten drafts – the unstoppable force of usage meeting, the unmovable wall of precision. Finally, one of the staff hit on the suggestion. “Focus on the bell itself.” This is how the text on Book 1 Lesson 4 was made. An inspired solution.



Thomas Hardy
(Meiji University)



工藤 洋路
(玉川大学)

まとまりのある英文を 自律的に書く力を育てる

書くことの言語活動の充実に向けて

平成29年度に行われた「英語力調査」の中で、英語教員に対する質問紙調査が行われたが、まとまりのある文章を書く指導に関する質問として、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか」というものがあった。その回答結果は、以下のとおりである。

① よくしている	13.5%
② どちらかといえば、している	43.4%
③ あまりしていない	34.0%
④ ほとんどしていない	7.9%
⑤ 無回答	1.2%

「あまりしていない」と「ほとんどしていない」という回答を合わせると41.9%であり、一定数以上の教員は、まとまりのある英文を書かせる指導が不十分であることがわかる。その理由の1つとして、書くことの言語活動の適切な指導手順を教員と生徒が把握していないことが挙げられる。活動の指示文（プロンプト）を読み、モデル文を参考に書くだけでは、モデル文の最小限の置き換えに留まる傾向があり、それだけではライティング力の向上は望めない。**書くことの言語活動を効果的に行うためには、指導手順（生徒側から見れば学習手順）をしっかりと固める必要がある。**

書くことの言語活動の指導手順については、『中学校学習指導要領解説 外国語編』の中に、その例が示されている。行うべき言語活動の1つとして、「(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動」という

ものが示されているが、この活動について次のような説明が見られる。

… 求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫について指導する必要がある。そのためには、… 言語活動を関連付けた段階的な指導を行うことが有効である。具体的には、例えば、「①書き手は、テーマや話題に関する情報やキーワードを、順序を意識しながらメモする。②そのメモを基に、簡単な語句や文を用いて書き表す。③書き表したものを、ペアやグループになって聞いてもらったり読んでもらったりする。④聞き手又は読み手は、その内容について質問したり、コメントを述べたりする。⑤書き手は、やり取りした内容を参考に推敲する。」などの段階的な指導が考えられる。

これは、プロセス・ライティングの1つの手順を示していると言えるが、特徴的な点は、ペアまたはグループワークが取り入れられており、他者との対話によって、書くべき内容のアイデアを生み出したり、実際に書いたものを推敲したりするなど、「対話的な学び」の要素が見られる点である。一方で、育成すべきライティング力は、自律的にそのプロセスを見出し、他者の力を借りずに、自らで課題に適する英作文を書くことであることから、書くことの言語活動においては、教員の支援がある中で、**他者との対話も行いながら、書くためのプロセスを身につけることが重要になる。**03NCの中で、書くことの言語活動は主としてUSE Writeで扱っているが、身につけるべきプロセスを効果的に学習できるように構成されている。

USE Write の特徴

03NCでは、書くことを主とした言語活動をUSE Writeと命名し、各学年に配置している。その主な特徴は以下のとおりである。

- 3学年すべてにわたって、USE Writeの**大まかな指導手順**は同じ。
 - ➔ 繰り返すことで、英語で書くプロセスを習熟できる。
- メールや手紙など、**多くの媒体でのライティング**が設定されている。
 - ➔ 多様なコミュニケーションの手段を体験できる。
- 誰に向けて書くのか、何のために書くのか、何を書くのかを意識さ

せる工夫がある。

- ➔ 「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じる」ことを通して、「思考力、判断力、表現力等」の育成ができる。
- 個人作業の前に、**クラスやグループで書く段階**が設定されている。
 - ➔ 「対話的な学び」の中で、書くべき内容を創造することができる。
- 教科書の登場人物が英文を書いたときの**プロセスを提示**している。
 - ➔ プロセスを学習することで、自律的な書き手の育成ができる。

1年 Lesson 5
USE Write

USE Write の指導(学習)手順

USE Write は 2 ページの見開き構成となっていて、指導の手順は、右に示したように、大きく3段階に分かれている。1段階目ではモデルとなるプロセスを確認し、2段階目でプロセスをたどる練習、3段階目で実際に自分のことについて書く流れになっている。

どの段階でも、「Step① 内容を考える⇒Step② 考えを整理する⇒Step③ 文章を書く」と決まったライティングの手順を踏むことによって、最終的に自分一人でプロセスをたどりながら書けるようにすることを目的としている。

1. Follow the Steps

他の人(教科書の登場人物の一人)の書くプロセス(=モデルとなるプロセス)をフォローしていく段階

2. Work in Class

先生やクラスメイトと一緒に書くプロセスをたどることで、協働的ライティングを行う段階

3. Write by Yourself

自律的に書いていく段階

USE Write を使って必ず行ってほしいこと

「Check 設定を確認しよう」の実施

USE Write は、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」を確認するところから活動がスタートするように構成されている。例えば、1年 Lesson 5のUSE Writeは「学校生活や行事を紹介するメールを書こう」というテーマであり、具体的な設定として、「リサから『日本の学校について教えてほしい』というメールが届きました。写真を添えて、日本の学校生活や行事などを紹介するメールを書こう」という指示が出されている。この指示文を読んだあとに「Check 設定を確認しよう」で、「何のために」「何について」「何を」をメモすることで、この活動を実行するための見通しを持つことができる。

USE Write, Check

Check 設定を確認しよう。

(何のために) 日本の学校をリサに紹介するために
(何について)
(何を)

また、活動の各段階において、Checkを用いて、目的・場面・状況等を振り返ることで、例えば、「読み手が海外にいるリサということは、日本の文化をあまり知らない人を書くことを想定しないといけない。つまり、詳しい説明を心がけよう」といった思考を働かせることができ、より適切な内容を書くことにつなげることができる。

「ひとりごと」のチェック



教科書の登場人物の一人が書くためのプロセスを紹介してくれているが、その人の「ひとりごと」が示されている。具体的には、各ステップで、頭の中で何を考えて、内容を決めたり、メモをしたり、英文を作ったりしているかなどを提示している。生徒自身もこのように、頭の中で色々と試行錯誤をすることで(言い換えれば、自己内対話

を行うことで)、質の高い英文を書くことができるようになる。単にモデル文やメモの例を提示するだけでは、それらがどのように生み出されたのかが分からないため、「ひとりごと」を読むことで、その一部を知ることができ、同じような思考をさせるためのモデルになる。



今井 裕之
(関西大学)

話し手と聞き手を育てる 発表活動

USE Speak で育てる発話力, 文章構成力

03NCの「話すこと」

03NCのUSE Speakは、「話すこと [発表]」の言語活動に特化したセクションとなっている。28NCのUSE Speakでは「話すこと [やり取り]」に対応するような活動も扱っていたが、03NCの「やり取り」は主に、Take Action! Talkが担っている。(本誌pp.28-30参照)

USE Speakは、発表に必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3要素を整理し盛り込んだ。USE Writeなどで学んできた、序論・本論・結論などのしっかりとした文章構成の「知識及び技能」を活用し、目的・場面・状況等に応じた内容構成の原稿を考え、発表する。また、発表の練習から本番に挑むまでの「粘り強さ」「自己調整」も求められる。加えて、話し手もさることながら実は「聞き手」の役割が重要であること、拍

手で話し手を迎えたり、よく聞きながらメモを取ったり、相づちをうったり、質問をしたりと多面的に活動しながら、話し手の意図をくみ、理解することを学ぶ。

また、新学習指導要領では、発表も「即興的」であることが求められている。即興的に話すためには、必要な表現や語彙を無理なく発話できる言語面の「知識及び技能」の練習とともに、目的・場面・状況を踏まえて、自分の経験や考えを引き出す内容面の「思考力、判断力、表現力等」の練習の両方が求められるが、中学生の知識や経験を鑑みて、言語面、内容面で無理なく楽しく取り組めるような言語活動(サイコロトーク、街頭インタビュー)を取り入れ「即興的な発表」の指導ができるようデザインした。

USE Speakが目指すこと

今回の学習指導要領の改訂では、「外国語教育における学習過程」が記されている。つまり「学び方」である。「①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する, ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる, ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う, ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、といった流れの中で…『思考力、判断力、表現力等』を高めていく」と記されている。この学習過程・方法が唯一ではないことは言うまでもないが、この過程で大切な、「目的」「見通し」を立てて動機を高め、「振り返り」を通して自己調整力を磨く過程は、言語活動を通して繰り返し行うべき要素であり、以下のように紙面に反映させることとした。

まず、Checkで場面や状況とタスク内容を確認する。続いて、右の表のプロセスで自主的・自律的に学習を進めるための支援を行う。

Watchでは、スピーチ動画を見る。スピーチは、発表時の声の大きさや抑揚、立ち居振る舞い等、実際に見てこそわかること、学ぶことが多い。ここでスピーチをパフォーマンスとして行う際の目的や工夫、見通しを立てる。

Read & Thinkでは、動画で見たスピーチの言語面に焦点をあてて分析する。単にモデル文の語句を入れ替えるだけではなく、メタ的

にスピーチ構成や英語表現を俯瞰する力を育成する。

Write & Speakは、4つのStepから構成される。話したいことや伝えたいことを発想、整理し、原稿に落とし込み、ポーズや抑揚、アイコンタクトなど発表時に心がけることをメモして、発表に臨み、質問や感想を述べ合う一連の活動の中で、絶えず「目的」「見通し」「振り返り」を行うことで、「思考力、判断力、表現力等」の質を高めるとともに、スピーチの作成・改善のノウハウを学ぶ紙面構成になっている。

最初は「聞き手」の視点から、続いて「話し手」の視点からスピーチ活動を学ぶ紙面構成になっていることにお気づきいただけたらだろうか。動画ではあるが、ほかの人のスピーチに、聞き手としてどのように臨むかを考えさせて「聞き手」を育成したい。

1. Watch	スピーチのモデル動画でゴールのイメージを立て、発表や質問の工夫を分析する
2. Read & Think	動画で見たスピーチの文章構成や、話し手の工夫を分析する
3. Write & Speak	Step 1 マップ等を用いて内容を考える Step 2 Opening, Body, Closingの構成に整理する Step 3 英文原稿を書き、発表時の工夫をメモする Step 4 発表前後の調整や振り返りを行う

1年 Lesson 7
USE Speak

偉人を紹介しよう

世界中の中学生が参加するスピーチコンテスト「A Great Person in History」に参加することになりました。好きな偉人やあなたが尊敬する偉人について発表しよう。

1. Watch 隣のスピーチ動画を観よう。
 (1) 発表するときに、誰がどんな工夫をしているか考えよう。
 (2) 発表のあとにどんな質問がぶられるか考えよう。

2. Read & Think 隣のスピーチ原稿と、隣が書いたスピーチメモを見て、どんな工夫をしているか考えよう。

Opening
 ●あいさつ
 ●人物
 Hi, I'm Riku from Japan. /
 Albert Einstein is a great person. I respect him. /

Body
 ●説明
 ●理由
 He was a great scientist / in the 20th century. /
 He won / a Nobel Prize / in 1921. /
 He had a strong passion / for science. /

Closing
 ●ひとこと
 Einstein is my hero. /

3. Write & Speak 原稿を書いて発表しよう。

Step 1 内容を考える

紹介する偉人

名前	国籍	業績	その他

Step 2 考えを整理する

Opening 人物

Body 説明
理由

Closing ひとこと

Step 3 文章を書く

(1) 発表の準備をしよう。読みづらいところがあれば、メモを確認したり書き直したりしよう。
 (2) 発表のあとにどんな質問がぶられるか考え、その答えを用意しよう。

Step 4 発表する

(1) 発表の準備をしよう。読みづらいところがあれば、メモを確認したり書き直したりしよう。
 (2) 発表のあとにどんな質問がぶられるか考え、その答えを用意しよう。
 (3) フラッシュグループで発表しよう。発表が終わったら、質問したり感想を言ったりしよう。

紙面構成の特徴

発表動画

身体、音声、視覚資料等をフルに使って行うスピーチやプレゼンテーションを学習するにあたり、動画によるモデル提示は不可欠と判断し、03NCでは動画を見る工程を採用した。しかし、スピーチのモデル動画をただ漫然と見るだけでは学習にならない。スピーチの内容、構成、音声表現の方法の工夫を分析することで、自分が話し手の立場なら、

発表メモ

モデルのスピーチ原稿を「暗記するモデル文」や「自分の情報を入れ替えてスピーチを作るひな型」として使うのではなく、他者の原稿から、伝わりやすい文章構成や、自分にも使えるような表現や語句を考え、動画と合わせて原稿を見て、リズム・抑揚の特徴やポーズの置き方などを分析することが大切である。しかし、初学者が音声の特徴を聞き取り判断することは、指導なしにはできないので、Read &

質疑応答

紙面には表れていないものの、「聞き手」の立場から質問をしたり、感想を伝えたりすることは重要である。難しいからと省略したり、教師が代表して済ませてはいけない部分である。新学習指導要領にも「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら」とあるように、他者を意識してこそそのコミュニケーションであり、USE Speakは「話し手が聞き手に配慮する」だけでなく「聞き手が話し手に配慮する」ことを学ぶ活動である。Watchの動画を用いて質問の仕方を確認する際に、例えばCritical Thinkingの指導を踏まえて、「Who does what, where, when, how, and why (what for)?」を心がけて聞きながら、モデルのEinsteinを紹介するスピーチであれば、「Where was Einstein born? What Nobel Prize did he get? Do you want to be a scientist in the future?」など、話し手が触れていない(かつ聞き手が関心を持つ)ことについて質問をするなどの指導を行いたい。

どんなスピーチをするか、参考になる工夫はあるかを考えさせる必要がある。それにより、これからスピーチを作成し、発表するための目標と見通しを具体的に立て、その後の学習を受動的なものではなく、主体・自律的なものにすることができる。

Thinkのスピーチ原稿には、リズム、抑揚、ポーズの特徴、表現の工夫が、動画の映像・音声に合わせて書き記されている。USE Speakは発信技能のセクションであるが、Read & Thinkはその中でも受動的な技能を使い、聞き手の立場から活動を分析して自分の発表に活かすパートである。ここで理解できた音声や表現に関する知識を、Write & SpeakのStep 3や4で自分のスピーチ原稿に活用する。

質問を考えるためのヒントは、他のパートの活動にもあるので、生徒たちにその都度意識させるとよいだろう。例えば、Write & SpeakのStep 1と2のように、スピーチの構成を考える際に使ったマップやテーブルも、他者のスピーチを聞く際のフレームワークとして活用することが考えられるだろう。マップを見ながら、「説明」をもう少し聞きたいとか、「理由」は自分の経験と関係あるのか、などと想像して役立てることができる。

原稿を書いて行うスピーチでは、自分で書いたお手本に縛られて必要以上に緊張するものだ。繰り返しになるが、「話すこと [発表]」の指導にあたっては、聞き手の役割を指導することも大変重要である。聞き方の方略指導あってこそ、有意義な質疑応答を経て、たとえ間違えたとしても話し手の充実感につながり、スピーチの経験が学びとなることに留意したい。

Take Action! Listen (聞くこと)

聞き取る自信をつける リスニング指導



松沢 伸二
(新潟大学)

Let's Listenから Take Action! Listenへ

03NCでは、リスニングの指導は主にTake Action! Listenで行う。このページは、28NCのLet's Listenを発展的に引き継ぐ形で、新学習指導要領に対応している。タイトルにTake Action!が加わったのは、聞き取った内容をふまえて行動するThink & Actというタスクを追加したからである。例えば、本稿で取り上げる1年 Take

Action! Listen 3では、2つの映画の予告編を聞いたあとに、どちらを見たいかを考えさせる。これは、新学習指導要領の「活用」を重視する方針により、「聞くこと」の言語活動例に「(ウ) …を聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動」や「(エ) …その内容を英語で説明する活動」が示されたことを踏まえている。

目的・場面・状況の設定

新学習指導要領では、全ての教科等の目標と内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。外国語の「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の目標では、「(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解…できる力を養う」と書かれており、「聞くこと」の領域においても、「目的や場面、状況」に応じてリスニングを行える技能の育成が強調された。

Take Action! Listenは、この学習指導要領の改訂に対応するために、場面を海外に設定し、その中で「目的や場面、状況」を設けることにした。右上のイラストは、Take Action! Listenの登場人物である。加藤夏海(中央)は、Lessonのメインキャラクターである



加藤陸の姉で、カナダのバンクーバーに、高校1年の9月(03NC 1年の時点)から留学する。夏海はホームステイ先の家族の会話を聞いたり、部屋でラジオを聞いたり、外出先でアナウンスを聞いたりする中で、様々な英語に触れる。

夏海と一緒に、実際に将来体験しそうな聞き取りに目的意識を持って取り組むことを通して、生徒の実践的なリスニング力を伸長することを期待している。

「必要な情報」「概要」「要点」の聞き取り

新学習指導要領は「聞くこと」の目標として、「必要な情報」「概要」「要点」の聞き取りを生徒ができるように指導することを示している。実は、このような目的に合わせた聞き取りの指導は、28NCで既に取り組みされている。03NCでもこれを引き継ぎ、①聞き手が必要な情報を聞き取る、②話の全体的な内容を聞き取る、③話し手が伝えたいことを聞き取る、と生徒にわかりやすい文言を用いて、聞く目的を明示している。

Take Action! Listenの学習は、各学年6回の計18回行う。その内訳は、「必要な情報」の聞き取りが7回、「概要」の聞き取りが3回、「要点」の聞き取りが8回である。「概要」の聞き取りの学習が少ない

のは、それが「要点」の聞き取りの学習でも取り込まれるためである。1年で比較的易しい「必要な情報」の聞き取りに多く取り組み、2年と3年でより高度な思考・判断・表現力が求められる「要点」の聞き取りに多く取り組むシラバス構成になっている。

テキストタイプも、説明文、物語文、意見文の3つを取り入れた。右ページの例は「映画の紹介」で、説明文の概要の聞き取りを学ぶ。他にも「天気予報」で説明文での必要な情報の聞き取り、「ラジオニュース」で物語文の概要の聞き取り、「旅行の行き先の相談」で意見文の要点の聞き取りなど、03NCでは様々な目的とテキストタイプでの「聞くことを学ぶ」(learn to listen)機会が設けられている。

リスニングの方略と下位技能の指導

リスニングの授業での教師の役割は、聞く目的とテキストタイプによって適切な方略 (strategy) と下位技能 (subskill) を生徒が使えるように指導することである。右の例では、映画の予告編をラジオで聞いて、そのあらすじを捉える大意把握聞き (listening for the gist) を行うが、まず、場面と状況を説明する指示文に続く **STAGE 1 (Get Ready)** に、「右のExpressionsを参考に、映画の予告編を聞くとき、あなたはどんなことを知りたいですか」と「映画の予告編で使われる表現を確認しよう」の2つの課題がある。ここでは、音声を聞く前に、教師は前者で目的・テキストタイプに応じた形式スキーマ (formal schema)、後者で話題についての内容スキーマ (content schema) を活性化する方略を指導することができる。生徒は「予告編では何がどんな順番で説明されるだろうか」「solve problemsとあるから探偵ものだろうか」「どんな単語が聞こえてくるだろうか」などと考えることで、活動に取り組みやすくなる。

続いて **STAGE 2 (Listen)** の **1st Listening** で「2つの映画の予告編を聞いて、それぞれのあらすじをまとめよう」という課題があるが、ここには必ず、言葉を使って現実的な課題を解決するタスクを配置している。03NCではこのように、聞くことの目的とテキストタイプに正対したタスクに取り組むことで、適切で効率的な聞き取り能力を身につけさせる。右の例では、映画のイラストに続くあらすじの穴埋めに取り組むが、ここでは例えば、5W1Hを聞き取ることなど、概要の聞き取りに関わる下位技能を指導することができるだろう。

また、**STAGE 2 (Listen)** には **2nd Listening** で「聞き取れなかつ



1年 Take Action!
Listen 3

た部分に注意しながら、もう一度聞いてみよう」との指示がある。リスニングにはスキーマを活用して理解を進めるトップダウン処理 (top-down processing) と、音声入力を正確に処理するボトムアップ処理 (bottom-up processing) がある。生徒は1st Listeningまではトップダウン処理で課題に取り組み、この2nd Listeningでボトムアップ処理も意識して、再度の聞き取りに取り組む。教師はここで音声面での指導に加えて、ボトムアップ処理に動員すべき下位技能を指導できる。

言語材料の習得と聞くことの練習、そして評価

STAGE 2 (Listen) の **3rd Listening** の指示は「巻末のAudio Scriptsを見ながら音声を確認しよう」である。03NCでは、全学年に音声の英文を書き起こしたスクリプトを掲載した。また、QRコードから生徒が自宅で音声を聞けるようになっている。スクリプトで使われている語句、文構造や文法、音声的な特徴などを確認することで、聞き取りの力が向上するだけでなく、言語材料の習得を図ることができる。これらの素材を活用して、聞いた音声を文字で確認したり、音読したりするような「学ぶために聞く」(listen to learn) 学習にも確実に取り組んでもらいたい。

また、03NCでは新しく **BONUS STAGE** を用意し、**STAGE 2** の「学習タスク」(learning task) と、内容や形式が似た (パラレルな) 「練習タスク」(practice task) を教科書の中で提供している。同じ目的や、同じテキストタイプの音声の聞き取りに繰り返し取り組むことで、リスニング力を伸ばし、さらに一度聞き取れなかった英語に再度挑戦し、聞き取れるようになることで、生徒に自信をつけさせたい。

この **BONUS STAGE** は後の定期考査で出題する「評価タスク」

(assessment task) にもつながる。「聞くこと」の評価では、学習タスクと内容や形式が似た (パラレルな) 評価タスクを課して、生徒が授業を通して身につけたリスニングの方略、下位技能、言語知識などを駆使して目的に適した聞き取りができるかを測定する。この評価タスクは、学習タスクと内容や形式がパラレルな練習タスクである **BONUS STAGE** のタスクの細部を一部改変するなどして作成できる。

(右) 巻末に掲載されているスクリプト (一部)
(左) 巻末「Audio Scripts」へのリンク



Take Action! Listen

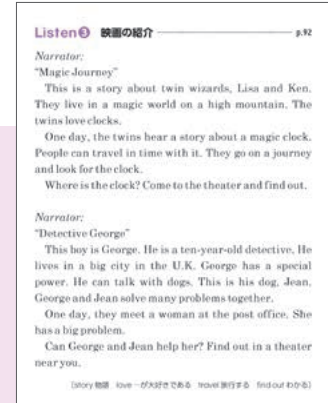
モデル授業



田嶋 美砂子
(茨城大学)



巻末に掲載されているスクリプト(一部)



授業のねらい

目標：話の全体的な内容を聞き取る。(概要理解)

内容：2つの映画の予告編を聞いて、登場人物や主要なできごとなど、それぞれのあらすじに関わる情報をまとめる。(空所補充)

授業開始

1 Warm-up : 雰囲気作り

前時の復習, small talkあるいは帯活動など, 短いながらも実際に英語を聞いたり, 話したりする活動から導入することにより, Take Action! Listenに入るための雰囲気を作る。

2 STAGE 1 Get Ready : 場面設定の確認とスキーマの活性化

はじめにリード文を読み, 場面が「映画の予告編を聞く」であることを理解する。そのうえで, 「映画の予告編」は通常, どのような情報を得るときに聞くのかということについて, これまでに培ってきた知識・経験などを駆使しながら考える。さらに, Expressionsに記載されている表現を確認し, 聞く準備をする。

3 STAGE 2 Listen : 聞く力の段階的な伸長

このステージでは, 同じ音声を最低でも3回聞くことになるが, リスニングのポイントはそれぞれ異なる。

- 1回目は場面(映画の予告編を聞く)と目的(あらすじをまとめる)を理解したうえで聞く。ペアであらすじの答え合わせをする。
- 2回目は聞き取れなかった部分に意識を向けて聞く。その後, 今度はクラス全体であらすじの答え合わせをする。
- 3回目は巻末「Audio Scripts」を見ながら聞く。その後, 1st Listeningの解答となった箇所が英文のどこにあるのかを探し, クラス全体で確認する。

4 STAGE 3 Think & Act : 思考力・発信力の伸長

これまでに聞いた2つの予告編をもとに, 「自分なら, どちらの映画を見たいか」「それはなぜか」という問いについて考える。その後, ペアやグループで意見を出し合い, クラス全体で共有する。このような学習段階をTake Action! Listenにおいて習慣化することにより, 受け身の活動になりがちな「聞くこと」が, むしろ聞いたことを基盤として自らの思考力・発信力も高めていけるものになる。

5 BONUS STAGE : 聞く力のさらなる伸長

「映画の予告編」という同じ場面で, 別の映画に関して聞く。パラレルな音声を使った聞き取りに取り組むことで, 聞く力のさらなる伸長を目指す。STAGE 2の学習過程のうち, どの部分に力を注ぐのかは, 教室の様子に応じて決めるとよいだろう。

6 Sounds : つづりと発音に関するルールの理解

最後につづりと発音の関係を確認する。つづりと発音に関するルールを学ぶと, 知らない単語でもつづりを見れば発音できるようになり, ひいては音声を聞く際にも, 音から単語のつづりが推測できるようになることを体感させたいところである。

授業終了

ひとこと 今回, 付録にスクリプトを掲載しました。O3NCは, 音声で「見える」利点を活かした教科書です。(田嶋)

題材紹介 ②

読み物教材では、登場人物の気持ちなどを考え楽しみながら読めるよう、世界中で親しまれている作品を取り上げています。ここでは、その一部を紹介します。

1年



Alice and Humpty Dumpty

この物語は、中学生だけでなく我々大人にも、夢と冒険・非日常性への興味と憧れ、そしてちょっとした畏れをかき立ててくれる。「名前」に関するやりとりや、「ネクタイ」と「ベルト」の誤解。アリスの歌に対する、ハンプティの反応。解釈は様々であろう。アリスは、穴に落ちたことで普通の生活では得がたい経験をし、新たな発想、着想を得た。たまにはウサギを追いかけ、地面の穴へ落ちていくのもよいかもしれない。

(佐藤 臨太郎 奈良教育大学)

A Pot of Poison

狂言の『附子』を原作とする和尚と小僧たちの知恵比べの話で、中学生も楽しく読める内容だ。03NCでは、観の最後の発言が“My ears are ringing.”(耳鳴りがする)に変更された。耳鳴りがするとき、私たちは手で耳を塞ぐしぐさをしますが、もしこの場面で観がそのしぐさをしていたら、「和尚の説教は聞きたくない」というジェスチャーになるのでは?などと、いろいろと想像をふくらませながら読んでほしい。

(佐々木 顕彦 武庫川女子大学)

2年



Courage

「9回裏、同点、ツーアウト満塁で打席に入る勇気」、「自分から『ごめんね』と言う勇気」、勇気にはいろいろな種類がある。でも、どんなに小さな勇気でも、勇気は勇気。

「一日一回は手をあげて発言しようかな」、「委員会に立候補してみようかな」…。 “Courage” は、受験の年、3年生への進級を目前にした2年生に何かしらの勇気を与えてくれるはずだ。

(重松 靖 国分寺市立第二中学校)

2年



Zorba's Promise

“Zorba's Promise” is a wonderful engaging story. The idea of a cat raising a gull is fun to imagine. Both characters face challenges, but are successful through their hard efforts. Zorba shows his true love for Lucky by teaching and encouraging her to fly away although it means they will no longer be together. As the story says, “Each is different. Each is good.” What matters most is that we show others love and respect.

(Robin Sakamoto Kyorin University)

3年



Take Action! Talk (話すこと[やり取り])



今井 裕之
(関西大学)

Take Action! Talkで 即興的なやり取りを

Take Action! Talk の「会話の目的の3区分」と「言語の働き」、シラバスの考え方

Take Action! Talkでは、既習の「知識及び技能」を駆使しながら、「思考力、判断力、表現力等」を「話すこと [やり取り]」を通して育成することを目標としている。それを具現化するシラバス（各学年に6回）を設計する際に大事にしたのは、「会話の目的（タイプ）を3区分する」と「言語の働きを組み合わせる」とことである。また、生徒たちが即興的な会話に対応できる話者になるよう、コミュニケーションの目的・場面・状況を示したロールプレイや、自らのことばで話す即興的パフォーマンスの言語活動を大事にした。

「会話の目的の3区分」とは、①Chat / Conversation ②Transaction ③Discussionである。これは新学習指導要領が、以前の4技能から「話すこと [やり取り]」を追加し、5領域に広げた際に参考にしたと思われるCEFRの言語活動の記述をもとにしている。各区分の詳細は右ページを参照してほしい。「言語の働きを組み合わせる」とは、Student AとStudent Bの2人で会話をする際に、A・B各々に、目的・場面・状況に適した「言語の働き」を学習目標として設定したということである。例えば、右の表にあるように、「Chat /

Conversation（相手とよい関係を築く）」という区分（目的）の、漫画についての会話において、Student Aは「質問する」、Student Bは「情報を付け加える」という、対話に参加する際に自分が果たすべき役割を設定している。即興的なやり取りにおいて、自分の役割が不明瞭な会話活動では、生徒は話す目的や方向性を見いだせず、発話しづらい。役割を明確にすることで、「言語の働き」を文脈の中で習得する段階を設け、最終的には自分の役割を自ら考える現実の即興的な対話へとつながると考えた。この2つの大きな方針のもとに、即興的なやり取りができる生徒の育成を目指すシラバスを設計した。

「言語の働き」の組み合わせの例

区分	話題、場面	Student A	Student B
① Chat / Conversation	好きな漫画	質問する	情報を付け加える
② Transaction	道案内	道順を尋ねる	道順を説明する
③ Discussion	班別自由行動の行き先	理由や説明を求め	根拠を示して説明する

言語活動の工夫 (Work in Pairs / ロールプレイシート)

即興的なやり取りを実現するためには、「質問と答えの定型パターンを暗記する」などの反復練習と記憶だけでは十分ではない。それに加えて、目的・場面・状況を踏まえて、自分がどう振る舞いたい・振る舞うべきかを考えることが必要である。特に①Chat / Conversationでは、相手の発言や質問に、定型的応答でまず答え、関連する発話を加えることで会話が発展するが、関連する発話を発想する即興性は、場面・状況で自分がどう振る舞いたいかを想像することから生まれるとも言える。Work in Pairsは、目的・場面・状況を示した言語活動となっているが、ぜひ教室では、生徒に「一緒に楽しめるスポーツを見つけよう」や「相手にインタビューしよう」等と声をかけ、どう振る舞うべきか・振る舞いたいかなど、発話の目的や自分の役割を考えさせながら、活動させてほしい。②Transactionの言語活動については、「道案内」等の特定の目的と場面を明確に設定する必要があるため、**ロールプレイシート**を採用した。Student A

とStudent Bがそれぞれ異なる情報を持つことにより、同じ地図を見ながら道を尋ねる不自然さは解消され、また、場面・状況から、本当に知る必要のある情報を相手に求めてゴールにたどり着く、**真実性**が高い**即興的コミュニケーション**を体験することができるだろう。

1年 巻末 ロールプレイシート (道案内)

A あなたは、道に迷ってしまった海外からの旅行者です。
Bは、わかば市の市民です。(A〜Cから1つ選び、Bに話しかけ、そこまでの道順を教えてください。)

Midori Art Museum Wakaba Zoo Crown Land

道順をたずねる
How can I get to ... ?
Where's ... ?

Idea Box
Excuse me. (すみません.)
One more time, please.
(もう一度お願いします。)

B あなたは、わかば市の市民です。
Aは、海外からの旅行者です。
Aに話しかけられたら、適切に応答しましょう。

Midori Art Museum Wakaba Zoo Crown Land

所在地

Student Aには「目的地」、Student Bには「地域の地図」を与えることで、お互いの情報を交換しながら活動する必然性を生み出した。

Take Action! Talk の「会話の目的の3区分」

①Chat / Conversation (円滑にコミュニケーションをすることを目的とし、相手とよい関係を築くためのやり取り) ……

Take Action! Talkでは、CEFRの*Companion Volume with New Descriptors* (2018)で示される3つの言語使用の記述に基づいて、「会話の目的の3区分」を分類した。①は、Creative, Interpersonal Language Useと呼ばれるタイプで、個人間での創造的な言語使用=Chat, Conversationなどを指す。特段の結果や到達点を設けることなく、双方がお互いをよく聞き手としながら、やり取りを進展させることを目的とする。場面や状況も比較的限定されておらず、お互いが自分自身の気持ちや考えを場面・状況や話題に合わせて尋ね合う活動である。シラバスでは、「会話を始める」など、

円滑なコミュニケーションに欠かせない挨拶等の「言語の働き」から始め、即興的で予測のつきにくい展開に対応できるよう「詳しい説明を求める」等へとだんだんと深化するように配列した。

	Student A	Student B
1年	会話を始める	あいづちを打つ
	会話を終える	あいづちを打つ
	質問する	情報を付け加える
	描写する	聞き直す
2年	つなぎ言葉を使う	詳しい説明を求める
3年	話題を変える	確かめる

②Transaction (特定の場面で、特定の目的を達成するためのやり取り) ……

このタイプのやり取りはCEFRではTransactional Language Useと呼ばれる。「目的地までの道順を知る」などの特定の目的のために、双方が自分の役割に応じて情報を提供、交換し合い、協働する活動である。このタイプにおいては、明確なゴール、典型的な展開、それぞれの役割が明確な言語活動を通じて学習ができるように設計した。左ページで述べたロールプレイシートもその工夫のひとつである。店員など、自分以外の役を演じる点で①とは異なる。演じることに抵抗のある生徒もいるだろうが、場面・状況の設定と役割がこのタイプ

には欠かせないため、動機づけをしながら活動に取り組みたい。

	場面	Student A	Student B
1年	買い物	提案する	好みを伝える
	道案内	道順を尋ねる	道順を説明する
2年	電話	誘う	応じる・断る
	トラブル	申し出る	困っていることを伝える
3年	電車	道順を尋ねる	交通経路を説明する
	食事	食事を勧める	承諾する・断る

③Discussion (考えを伝えたり、意見を交わしたりして、議論を深めるためのやり取り) ……

このタイプは、Evaluative, Problem-solving Language Useと呼ばれる。ディスカッションがその典型にあげられるが、Take Action! Talkのなかで本格的な議論を展開・完結させるのではなく、主には議論の際に必要な「言語の働き」に習熟し、スキルを磨くことを目指す。その上で、本格的なディスカッションの展開についての指導は、Projectを通じて行う設計である。

	Student A	Student B
2年	意見を言う	賛成する
	意見を言う	反対する
3年	理由や説明を求める	根拠を示して説明する
	議論を進める	議論に参加する

Take Action! Talk の指導

Take Action! Talkの紙面は、①Title, ②Skit, ③Expressions, ④Work in Pairs (言語活動)の4つのパートで構成される。①Titleで場面と本時に学習する「言語の働き」を確認し活動の目的と見通しを立て、②Skitでは丸暗記ではなく、「言語の働き」と言語表現を結びつけて理解し、③Expressionsで会話を発展させるパリエーションを考え、④Work in Pairsで音読に終わらない即興的な言語活動を行えるように紙面設計した。Take Action! Talkは、文法事項に習熟させるページではない。生徒たちに習熟させたいのは、設定された目的・場面・状況の中で「言語の働き」を意識しながら会話を継続・発展させることである。「この場面で、君ならどうする?」と問いかけて、「Take action!」させてほしい。

① Title

② Skit

③ Expressions

④ Work in Pairs (言語活動)

1年 Take Action! Talk 4

Take Action! Talk

モデル授業

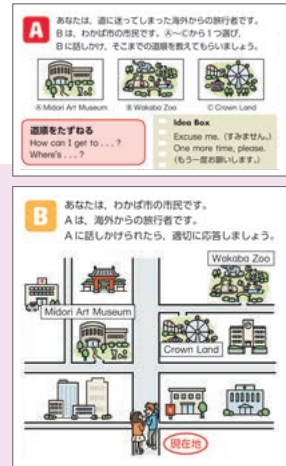


谷口 友隆

(相模原市立大野南中学校)



1年 巻末 ロールプレイスシート (道案内)



授業のねらい

目的地までの道順を尋ねたり、その質問に対して事実や情報を整理して伝えたりする。

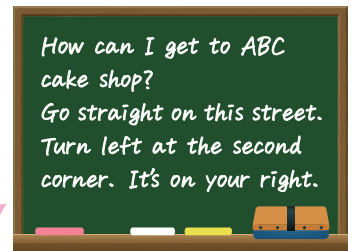
授業開始

1 学習の動機づけ、スキーマ喚起

- (1) 道案内の舞台となる地域の地図などを見せ、建物や道順を表す語を英語で言えるか確認する。
(art museum, zoo, amusement park, right, left, straight, turnなど)
- (2) ケーキの写真を見せ、それが地域で有名なABC cake shopのものであることを伝える。

2 音声でスキットの導入

- (1) オーラルイントロダクションで会話の場面・状況を伝え、現在地を地図上で確認する。
- (2) ABC cake shop がどこにあるかを聞き取るよう伝え(最初のタスク)、音声を流す。
- (3) ペアで聞き取れたことを確認し、クラス全体で答えを確認する。
- (4) 「どんな表現で道を探っているか」「どんな表現で説明しているか」を聞き取るように伝え(2回目のタスク)、音声を流す。
- (5) 聞き取れたことを発表し合ったあと、右の英文を板書し口頭練習する。



3 内容確認・やり取り練習

- (1) 教科書を開き、黙読で会話の全体の流れを確認する(必要であれば意味を確認する)。
- (2) 英文を見ながら音声を聞かせる。
- (3) 新語 (**Words**) や、道順を尋ねたり説明したりする表現 (**Expressions**) の口頭練習を行う。
- (4) 音読練習をする。
 1. コーラス (3回)
 2. 教師が旅行者役、生徒が案内役になり音読。その後、役割交代
 3. 生徒同士がペアで、旅行者役と案内役に分かれて音読。その後、役割交代
- (5) やり取りの練習をする。
 1. ①で示した地図を見ながら、クラス全体で動物園へ案内するやり取りを練習する
 2. ペアで、役割を交代しながら練習する

4 即興的なやり取り活動・まとめ

- (1) 巻末「ロールプレイスシート」を使ってペアで道案内のやり取りを行う。
- (2) 終わったペアは、教師の前で、指定された目的地を尋ねたり、説明したりするやり取りを実演する。
- (3) ロールプレイでやり取りした内容をノートに書く。



授業終了

ひとこと 03NCの私のお気に入り「QRコード」です。上手く活用してくださいね。(谷口)

音声



金丸 紋子
(カリタス女子中学高等学校)

Soundsのシラバスと活動

03NC Soundsの全体方針・シラバスについて

1年 Lesson 3から始まるSoundsのコーナーにおいては、主に3つの方針のもとにシラバスを作成した。

①音声項目を、「英語のつづり」と「英語のひびき」に大別して扱う。前者においては、1・2年では、magic eなどの音とつづりの関係や、分節音・子音結合などを取り上げ、3年の日本人が苦手とする発音につなげるように工夫した。後者では、リズム・ストレス、イントネーション、音変化などについて扱った。

②国際英語という現実を踏まえ、バラエティ(変種)に共通する音声項目の指導に重きを置いた。

③リスニング・スピーキング活動とのつながりを重視した紙面構成とした。音声は4技能を結び付けるのに不可欠な項目であるため、Take Action! ListenとTake Action! Talkの紙面内に配置し、実用的な活動の際に音への意識づけが十分にされるように工夫した。

Sounds 3年間の学習の流れ

	英語のつづり (1・2年) / 英語らしい音 (3年)	英語のひびき
1年	・基本的な音とつづりのルール (magic e, 曖昧母音, 動詞の活用語尾の音など)	・基本的な文の読み方 (文末イントネーション, トーンユニット, リズム・ストレスなど)
2年	・発展的な音とつづりのルール (子音結合, 二重母音など)	・文中における語句の音変化, 強勢など (内容語と機能語, 脱落, 同化, 結合など)
3年	・日本人が苦手とする音の学習 (似た音を持つ子音の区別, 長母音と短母音など)	・いろいろな英語の音声(変種, 音声感情) ・活動のまとめ(音読・暗唱活動)

「発見型アプローチ」の活動

教師がルールを教えて、それに当てはめて生徒が練習を重ねるような教師主導型ではなく、生徒たちが主体的に考えて、クラスメイトとやり取りをしながら音声の学習を進めていく活動を多く盛り込んだ。また、紙面の活動だけに留まらず、「同じルールが当てはまる違う語をこのLessonから探してみよう」といった発展の可能性が大いにある設計となっている。生徒同士がやり取りをしながら、学びを

深め合う学習にも役立ててほしい。

1年 Lesson 8 Sounds

Sounds 英語のひびき

次の英文を、①②それぞれの意味が伝わるように区切り方を工夫して声に出して読もう。

I will read and write reports tomorrow.

- ① 私は明日、レポートを読んだり書いたりするつもりです。
- ② 私は明日、読書をしたり、レポートを書いたりするつもりです。

巻末「つづりと発音」

1・2年の巻末「つづりと発音」では、発音記号に加え、QRコードの遷移先に、発音をする時の舌の位置や動かし方、空気の出し方、口の形などを3D化した「発音図鑑」の動画を用意した。このような立体的な動画を使うことで、口頭での解説や紙面上での表現が難しい舌や唇の動かし方を、視覚的に理解・体感し、上達させる練習が可能となる。

付録

Sounds つづりと発音

①子音の発音

文字	発音	単語
b	/b/	book, beach, table, umbrella
c	/k/	cap, cool, cup, recorder, music
	/s/	century, face, decide
d	/d/	day, door, today, children

1年 巻末 つづりと発音



発音図鑑©Fuminori Homma (東京外国語大学根岸研究室教材開発ユニット)

ひとこと モーラとシラブルの違いを把握すると、その他の音に関するルールがより明確になります。リズムよく発音するとメッセージの伝わりやすさがアップします!(金丸)

領域統合型の言語活動



工藤 洋路
(玉川大学)

新学習指導要領に基づく指導の在り方

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（以下、解説）の中に、現在の中学校の英語教育の課題に関して、以下のような記述がある。

… 授業では依然として、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないことや「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことにつ

いて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題がある。また、生徒の英語力の面では、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題がある。（下線は本稿筆者による）

このような課題を踏まえて、新学習指導要領では、以下に関する指導の充実が求められている。

話すことが「やり取り」「発表」の2領域へ

話すことの「やり取り」と「発表」の2つの領域では、「即興で伝え合うこと」または「即興で話すこと」が目標として掲げられており、何を話すか、さらにそれをどのように英語で表現するかをその場で考えて話していく力の育成が必要となる。ただし、その際留意しなければいけない点がある。即興で活動を行う場合、内容面と言語面の準備が不十分な状況で行うことになるため、うまく話せなかったり、話しても誤りが多くなったりする。この点に関して解説では、「即興で話したり書いたりする活動を行い、その過程で相手からフィードバック

を受けたり、同じタスクを相手や役割を変えながら複数回繰り返しながら学びを深めていくこと」が必要だとしている。また、即興といってもすべてその場で考えさせるのではなく、メモを活用するなど、即興で活動を行うための支援をすることも大切である。解説では、「メモやキーワードを頼りにしながらであっても即興で発表すれば、多少の誤りやたどたどしさがあるのは当然であるという認識の下に、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う必要がある」としている。

領域統合型の言語活動の充実へ

複数の領域を統合することの利点の1つは、同じトピックやテーマで、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることで、同じ言語材料に触れる回数が増えるということである。聞いたり話したりする音声面の学習によって、言語材料を定着させることが得意な生徒もいれば、読んだり書いたりする文字面の学習が得意な生徒もいる。あるいは、聞いたり読んだりする受容技能の面で力を発揮できる生徒もいれば、話したり書いたりする発表技能の面で力を発揮する生徒もいる。多様な生徒が混在するクラスの中で、生徒一人一人に適した学習ス

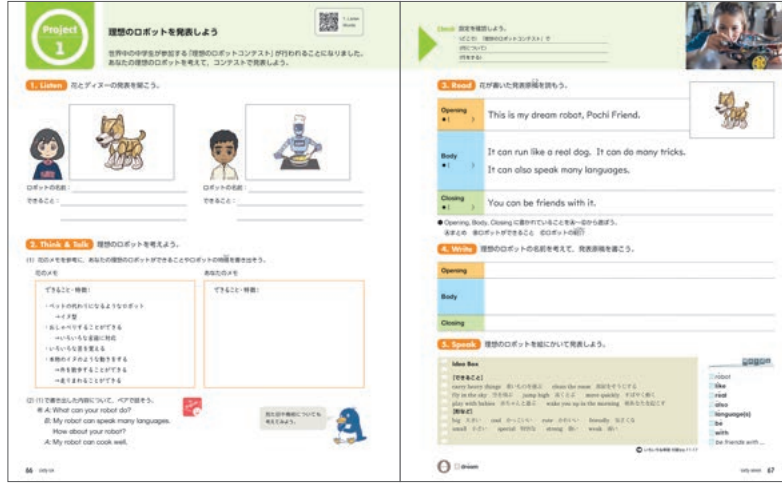
タイルを経験させながら、また自分に適した学習方法を探させながら授業を展開することは、自律的な学習者の育成の視点から見て、とても大切なことである。領域統合型の活動のもう1つの利点は、複数の領域を使うため、いくつかのステップを踏みながら、生徒たちは学習に取り組むことが必然となる。結果として、最終活動では、深い中身のある内容を発信できたり、より高度な言語材料を使用できたり、長い英文を話したり書いたりすることが可能になる。このことは、生徒に自信をつけさせることにもつながる。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況の意識

言語活動において「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」を設定することの意義は、生徒に、それに応じて何を伝えるべきか、どう伝えることが効果的かを考えさせることにある。それらを考えずに英語を発信した場合、求められている内容にならなかったり、適切な言語材料の選択ができなかったりする可能性がある。また、目的・場面・

状況があるからこそ、何を伝えるべきかを考える根拠となり、「何を書いていいかわからない」という生徒が少なくなることが期待できる。実際に英語を使用する場面は、何らかの目的・場面・状況があることから、目的・場面・状況が設定された言語活動を教室内で実施することにより、実際のコミュニケーションの体験が可能となる。

1年 Project 1



03NCにおけるProjectの言語活動

Projectの特徴

左ページでは、現在の英語教育の課題から新学習指導要領で求められる指導のポイントを3点挙げたが、これらの3要素を取り込んだものが03NCのProjectの言語活動である。その特徴をまとめると以下ようになる。

- 領域統合型のステップを踏んだ活動に取り組むことで、**既習の言語材料の定着につながる。**
- 最終活動にいたる途中のステップで、**メモをもとに話すことなど、即興的なやり取りを通して、話す力を育成する。**

- 活動の課題（指示文）から設定を確認する作業を通して、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況を意識させる。**
- 協働的な学習（ペア・グループワーク）を通して、**対話的な学びを実現し、他者から学ぶ、他者と一緒に学ぶことを実践する。**
- 領域統合型の活動の特徴を活かし、**調べ学習のステップを入れること**で、社会的なテーマにも取り組む。
- USE Writeで学んだプロセス・ライティングの手法など、他のページで学習したことを活用し、**学びを深める。**

Projectのテーマと主たる学習形態

右の表のように、Projectは、各学年3回（つまり、学期に1回の想定で）設定されている。テーマは多岐にわたるが、身近な話題でも、生徒自身の個人的な好き嫌いに終始しないように活動が設定されている。例えば、3年 Project 1の新作のアイスを提案する活動は、自分の好きなアイスを提案するのではなく、設定された状況を踏まえうえで、どのようなアイスを提案することがよいかを考えさせている。一方で、社会的な話題といっても、世界の環境問題のようなグローバルな規模の話題ではなく、「もし中学校の隣に空き地ができたなら何を作るか」（3年 Project 3）といった、自分の住んでいる地域レベルの社会的な話題を扱う設定となっている。学習形態については、1・2年では、最終活動を個人で行うものも設定しているが、途中のステッ

プでは、ペアワークで自分の考えを相手に伝えるといった活動も含まれており、他者から学ぶことも行う。最終活動が、ペア・グループワークの場合は、協働して1つのもの（例えば、タウンガイド）を作ることに取り組みながら、**他者と自分の意見の相違点などを解消する手法を模索することで、他者と関わる体験をする機会を設けている。**

	Project 1	Project 2	Project 3
1年	理想のロボット紹介 (個人)	英語のタウンガイド作り (ペア・グループ)	大切なもの紹介 (個人)
2年	将来の夢・したいこと (個人)	修学旅行のプラン提案 (ペア・グループ)	ディスカッション (グループ)
3年	新作のアイスを提案 (ペア・グループ)	イベント参加のプレゼン (ペア・グループ)	ディスカッション (グループ)

Projectの構成（ステップ）

上の図のように、1年 Project 1では以下のステップを踏む活動構成になっている。

1. Listen …… モデルを聞き、最終活動をイメージ
2. Think & Talk … アイデアを書き出し、共有
3. Read …… モデルを読み、構成を確認
4. Write …… モデルの構成を参考に原稿作成
5. Speak …… 自分のアイデアを発表

このProjectでは、このように複数の領域を用いて、ステップを踏みながら、自分のアイデアを徐々に深めていき、最終活動（ここではスピーチ）につなげていく手順を取っている。他のProjectも同様に、最終活動へ向けて、このようなステップを踏んでいる。実際にProjectを行う際は、先生がモデルを見せたり、アイデアを出す手助けをしたり、時には、批判的に生徒のアイデアを捉えてコメントしたりするなど、効果的な支援を加えることで、生徒たちは、最終活動でより質の高いパフォーマンスを発揮することができる。

Project (ディスカッション)

読んだことについて 意見を述べ合うディスカッション



鈴木 悟
(東京都立両国高等学校)

ディスカッションを2・3年の最後のProjectに位置づけた意図

新学習指導要領で新設された「話すこと [やり取り]」の領域の目標に、「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする」とある。

これに対応し、03NCでは、中学校におけるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な活動として、ディスカッションを2・3年最後のProjectに位置づけた。「読むこと」「聞くこと」「話すこと」の学習を統合することで、複数の情報を得て比べ、さらに、

立場の異なる多様な意見に触れる中で、思考・判断し、自分の意見を再構築する過程を、この活動を通して経験させたい。そして、いざその経験を実践的なコミュニケーションの場で活かしてほしいと考えている。

中学校卒業時に、自分の考えたことや感じたこと、その理由などを即興的に「述べ合う」ことができることを目標に、日々の授業で「やり取り」や「発表」の活動を積み重ね、新学習指導要領が目指す目標に近づけていきたい。

03NC で採用したディスカッションの目的と手順

ディスカッションにはいくつか種類があり、活動の目的によって手順も異なる。03NCでは、ある課題に対してグループで話し合い、最終的に1つの解決策やアイデアを提案する「課題解決型」のディスカッションを選択した。自分の意見を述べるだけでなく、ほかの参加者の意見に反応し、話し合いを進める必然性が生まれることで、確実に意見の交流が行われるからである。2年 Project 3では「地域のイベントのテーマ」、3年 Project 3では、「学校の隣にできた空き地に作る施設」を考えさせる。

ディスカッションの手順は、国語や学校生活の中で生徒がすでに経験していることを踏まえた形にした。4人1グループとして、一人一人に役割を与える。司会は固定だが、それ以外は役割を入れ替えながら、

全員が意見を述べるまで話し合いを続ける。

3年 Project 3

Role	Idea Box
 Lead a discussion (花) 全員が発言するように話者を指名する。 POINT ・静かになったら誰かを指名する。 ・感想や質問が出ない時は、自分の感想を言う。	What do you think, Riku? 君、あなたはどう思いますか。 Who has a different opinion? 違う意見の人はいますか。 Why do you think so? どうしてそう思いますか。
 Say an opinion (陸) 自分の意見について話す。 POINT ・ゆっくり、はっきりと話す。 ・聞き手が理解しているか気を配る。	In my opinion, 私の意見では、 I think we need a new hospital. 新しい病院が必要だと思います。 We should make a big park. 私たちは大きな公園を作るべきです。
 Make comments (ケイト、ディヌー) 意見を言った人に賛同したり、感想を言ったりする。 POINT ・意見の中で気になったことはメモする。 ・自分の意見と比べながら聞く。	I think so, too. そう思います。 That's a great /wonderfull idea. それは素晴らしいアイデアです。 It's perfect for ... ーにぴったりです。 I like the idea, but ... そのアイデアは好きですが、ー。

ほかの単元との関連

3年になっていきなりディスカッションに取り組むのは難しいため、03NCではディスカッションにつながる練習活動を、ほかのパートでも適宜取り入れ、段階的に学習が進められる構成になっている。

- GET (Talk) : 新出文法を使って自分の考えなどを述べ合う
- USE Read : 読んだ内容について話し合う
- Take Action! Talk : ロールプレイなどで、即興のやり取りを行う
- USE Speak (2年 Lesson 3) : ミニディスカッションを行う
- Project 2 (1 ~ 3年) : グループで話し合い、発表などを行う

即興的に自分の意見や理由を述べる際、それまでに繰り返し使用してきた言語材料や、既習の語彙が発話の中心となる。そのため、今の生徒の英語のレベルでは言えないことも出てくる。しかし、このような活動を通して、「(言語面・内容面で)何が言えて、何が言えないのか」を知り、個々の成長や課題に気づくことは、生徒の学ぶ意欲を喚起し、自律した学習を促す契機となるだろう。「学びに向かう力」の育成につながるという点においても、中学校の最後にディスカッションに取り組む意義(波及効果・汎用性)は大きい。

3年 Project 3



Project モデル授業

授業開始

① Check 1. Read : 場面設定を確認する【読む・話す】

リード文やCheckを用いて、ディスカッションの目的と場面設定を確認する。ウェブサイトに掲載された市民の意見を読み、わかば市が置かれている状況や課題を整理する。ここで、生徒各自の視点で市民一人一人の意見について、「よい点」と「よくない点」を考える。ペアになり、相手を替えながら複数回、考えたことについて（英語で）情報交換を行うことで、自分では思いつかなかった視点や情報を共有することができる。これらの過程は、後にディスカッションで、自分の意見を言う際に役立つだけでなく、ほかの人の意見について質問したり、感想を述べたりする際にも重要となる。

② 2. Listen : 手順を確認する, 多様な意見に触れる【聞く・話す】

登場人物たちのディスカッションの様子を聞き、そこで出ていた意見を整理する。さらに、4人の登場人物の中で最も賛同した意見を1つ選び、その理由を考えるとよい。Readとは異なる相手と複数回ペアになり、聞き取った情報（IdeaとReasons）や、考えたことを（英語で）伝え合う。ここでの活動は、ディスカッションのやり方を想起させるだけでなく、登場人物やクラスメイトの多様な意見に触れることで、Thinkで思考・判断し、自分の意見を再構築する際に役立つ。

③ 3. Think : 自分の意見を整理する

Readで読んだ市民の意見と、Listenで聞いた登場人物たちの意見、ペア活動で共有したクラスメイトの意見を踏まえて、わかば中学校の隣にある空き地に、どのような施設を作ったらよいか、自分の考えとその理由を各自で整理する。理由まで書いたら、自分の意見の「よくない点」も考えると、他の人からの質問や反論に備えることができる。

その後、ディスカッションの手順を確認する。

- STAGE 1 司会が声をかけ、ディスカッションを始める
- STAGE 2 1人が意見を述べる（その間、聞いている人は適宜あいづちをうつ）
- STAGE 3 発言が終わったら、その意見に対して、質問したり、感想を述べたりする
- STAGE 4 多数決をとって、グループの意見をまとめる

全員が意見を述べ終わるまで、STAGE 2と3を繰り返すことを確認する。その都度、司会を替えるなど、各自が違う役割を体験する。

④ 4. Discuss : 話し合う【話す】

再度Listenを聞かせるなどして手順を確認し、各グループ(ReadからThinkまでで一度も話していない相手と)の話し合いを始める。お互いに理由を含めて意見を出し合い、Readで考えた「よい点」「よくない点」などを活かして、質問したり感想を述べ合ったりする中で、合意できる部分やできない部分を整理し、徐々に自分の意見を再構築していくことを体験させたい。そのためには、グループを入れ替えて、何度も同じテーマで話し合う練習ができるとうい。

⑤ TRY Discuss : 自分たちの地域に置き換えて話し合う (次の時間)

課題を自分事として捉えて話し合うてだとして、TRY Discussを用意した。他教科などを通して学習している地域の課題や状況を、自分の住んでいる地域に置き換えて、ディスカッションができるとうい。

授業終了

自律的学習

自律的学習を支える教師の役割



亘理 陽一
(静岡大学)

自律的学習を助ける、あるいは促す授業内外の支援とはどのようなものかを考える。自律とは他者からの独立を意味するわけではない、自律的学習を、学習者の側に委ねられた、完全に授業の外にあるものと捉えるべきではない。自分の内なる規範に沿って他者を頼ることも自律的学習の重要な一部をなすのであって、自律にとって重要なのはむしろ、関係性の巧みな構築・利用と自己肯定感に支えられた克己心だと言える。書籍・映画・音楽等だけでなく、WebやSNSを通じて英語への接触がますます身近になっているとはいえ、膨大なコンテンツの海の中から今の自分に最適な学習資源を見つけ出すのはむしろ容易ではない面も大きく、信頼できるエキスパートのキュレーションの役割はますます大きい。英語教師はそのエキスパートの筆頭のはずであり、成人学習者ほど手段や環境の選択肢が豊富とはいえない中学生にとっては、その後長い期間続く自律的学習の助走として、**教師の問いかけやフィードバック、課す課題が極めて重要な意味を持つ**。例えば「QRコードがあるから授業前後に動画や音声を視聴しておけ」ではなく、何のために、どこに着目してどのように視聴すべきなのか、授業との接続において目的意識的にその意味を実感できるような取り組みを支えたい。

教科書は、聞いたり読んだりする英語を提示したり、それに基づいて話す・書く機会を提供する機能だけでなく、さらに発音や綴り、語彙・文法に関する知識を体系的にまとめる機能だけでなく、**英語の学び方を学んでもらう機能も担っている**。教科書が持つその探究性を、授業内外のどちらで活用すべきかを教師は十分に吟味すべきである。かくいう私は、授業以外で（あるいは授業でもろくに）教科書を開いたことのない生徒であった。そういう生徒が教科書を自律的学習のツールと考えるようになるには何が必要だろうか。それは、「言うは易し行は難し」ではあるが、教科書を参照して役に立ったという経験を授業内で積み重ね、教科書に助けを求めなければ解決が難しい課題が、押しつけられる形ではなく、納得されパーソナライズされることだろう。「QRコードで新出語句・表現の発音を確認せよ」ではやる気も起きないし、辞書でも事足りる。生徒が、自分のメッセージを具体的な相手に伝えるために当該語句を発音できることが重要だと感じていて、まだ自信がないと判断すれば、指示せずとも自ら参照しようと思うだろうし、スクリプト音源をモデルに利用しながら練習を重ねるだろう。

1年 もくじ



バーコードを読み取り、音声や動画を使って学習しよう。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

1年 巻末 What Can I Do?



メタ認知が自律的学習にとって重要なことは論を俟たない。問題は、十分なメタ認知能力が身につくまで自律的学習のプロセスを待てるわけでもなく、実質的な自律的学習には必ず何らかの形でメタ認知が介在するということである。**CAN-DOリストは、各単元や学期の到達目標を共有したり、4技能5領域でできることを生徒自らが把握することを助けるツール**であるが、ある時点での結果のみに一喜一憂するためにあるのではない。むしろメタ認知の補助として、ある到達目標に取り組む過程で部分的にでも今の自分にできたことや他者から学んだことを振り返り、「うまくやりたかったができなかった」という自らの伸びしろを具体的に明らかにするために用いるべきであろう。**教師やALTが不在でも音源を繰り返し利用できるQRコードの音声のメリットは大きい**が、単に繰り返し聴けばいいのではなく、聴き取れたこと、聴き取れるようになりたいことに自覚的な取り組みが求められる。ここでも、途中の過程を生徒が自己管理し改善を図っていけるように、パフォーマンスや学習の整理（蓄積）について教師からの支援が重要となる。

以前、私の授業を履修するある学生が、自分が受けてきた英語授業の端的なイメージを、小学校は「遊び」、中学校は「練習」、高校は「作業」と括り、他の学生も多くがそれに同意した。それでいいのか英語教育よ。ここで言われる中学校の「練習」は、必要感に駆られて自発的に打ち込んだ類のものではなく、ただ外から与えられたノルマの苦い思い出を指している。本当にそれでいいのか英語教育よ。「何のために」を考えない反復練習や単純作業ばかりが授業で課されていれば、多くの生徒にとって英語の学習とは「そういうもの」になってしまうだろう。そこに自分なりの判断や選択の余地は乏しく、そこから自律的学習が芽生えるとは考えにくい。学習者に任せきりにすることが自律的学習をもたらすわけではなく、**教師の計画的で慮慮深い「規定演技」**の中での自律的試行錯誤と手応えが、**「自由演技」**での創造性を保証する。例えばGET PlusのDialogやTake Action! TalkのSkitを聴き、その対話上の音声的特徴を分析した上で、自分がいずれかの人物を演じるとすればどういう言い方になるか。それはなぜか。自律的学習の観点から言えば、規定演技は、指示が具体的かつ明確で、その中での選択肢が豊富であることが望ましい。各教室での実践を通じたその追究にこそ私は教師の専門性を見出す。

ひとこと 「亘理くんは野党だからね😊」とどの会議でも自由に発言させてもらい、楽しくトンがり続けました。(亘理)

UD ユニバーサル デザイン

だれもが学びやすい教科書の工夫

年齢や性別、障がいの有無や能力を問わず、できるだけ多くの人々が利用しやすい教科書となるように、ユニバーサルデザインに配慮しています。

●読みやすく、書きやすい書体を使用

小学校英語との連携を考慮し、生徒が書くときの手本となる4線専用の書体や、読みやすさを重視したユニバーサルデザイン書体を開発・使用しています。



独自開発した4線専用書体

●カラーユニバーサルデザインへの配慮

○よい書き方の例



だれにでも見やすい紙面になるように、色の組み合わせに配慮しました。



それぞれのパーツが明確に識別できるように、色の濃淡や罫線を工夫しました。

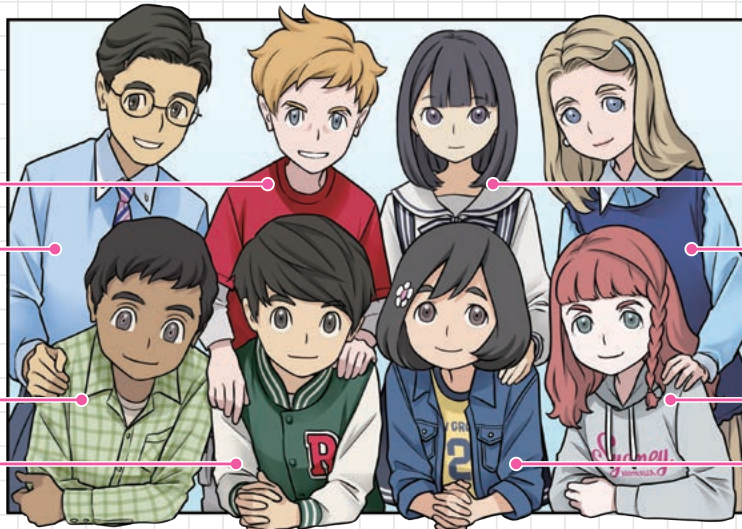


色だけが識別の手がかりにならないように、記号や番号、文字などで補足しました。

登場人物

魅力的なキャラクター

03NCでは、個性的で国際色豊かなキャラクターたちと一緒に、身近なことや日常的な話題、社会的なテーマなどを通して英語を学んでいきます。



Mark (アメリカ)

Mr. Oka (日本)

Dinu (インド)

Riku (日本)

Jing (中国)

Ms. Brown (イギリス)

Kate (オーストラリア)

Hana (日本)

キャラクターデザイン・イラストレーション：箕星 太郎

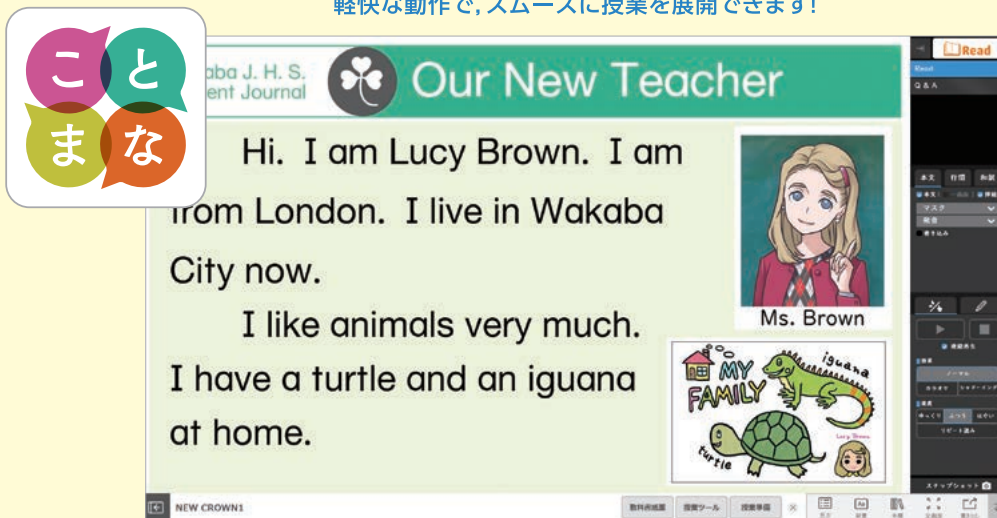
ひとこと 中学生が身近に感じるキャラクターになるように、性格から細かい設定までこだわりました。(編集部)

デジタル教科書・教材のご案内

テンポのよい授業を強力にサポートします

新しいプラットフォーム「ことまな」!

軽快な動作で、スムーズに授業を展開できます!



指導者用デジタル教科書

各活動の流れを焦点化して提示し、テンポよく授業を進行することができます。

【主な収録予定内容】

本文音声／ピクチャーカード／フラッシュカード／資料動画／モデル動画／Drillコンテンツ／教科書紙面／各種アニメーションによる解説(USE Writeなど)／書き込み機能／マスク機能／発音図鑑／英和辞典／フレーズ・リーディング／教材自作機能(MYスライド)／各種ファイルとの連携機能 など

学習者用デジタル教科書

紙の教科書と完全同一の内容になります。

【主な収録予定内容】

教科書紙面／書き込み機能／機械読み上げ機能

★録音音声は教科書紙面のQRコードからリンクされるウェブサイトとの連携で提供されます。

【録音音声の収録予定内容】

本文(Text)／新出語句(Words)／各種スクリプトの音声(Listen) など

学習者用デジタル教材

体験版URL

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/digital/>

※パソコンのブラウザ(Chrome / Edge / IE11)でご覧ください。

令和3年度版 NEW CROWNウェブサイト

内容解説資料や編修趣意書, 各種資料, 指導者用デジタル教科書(教材)の体験サイトなど, さまざまな情報を掲載しております。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/>

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 TEL 03(3230)9411(編集)・9412(営業)

■大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 TEL 06(6341)2177

■名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31協和丸の内ビル2F TEL 052(953)9211

■九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 TEL 092(531)1531・1532

■札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1ラスコム15ビル3F TEL 011(616)8722